

- 1 2 日 関東地方建設局：「首都圏道路網計画」（講義）及び湾岸道路プロジェクト見学
- 1 3 日 多摩ニュータウン及び町田市駅前再開発地の見学
- 1 4 日 都市高速鉄道プロジェクト見学
- 1 8 日 警察庁：「高速道路の警察活動」及び「交通規制管制」（講義）
- 1 9 日 警察庁：「交通指導取締りと事故処理」及び「運転免許行政」（講義）
- 2 0 日 科学警察研究所：「規制研究」「安全研究」及び「車輛研究」（講義）
- 2 1 日 府中運転免許試験場及び尾久自動車練習場見学
- 2 2 日 警視庁コントロールセンター見学
- 2 5 日 首都高速道路公団：「首都高速網の概要」（講義）及び現場見学
- 2 6 日 同 上
- 2 7 日 計量計画研究所：「総合交通計画の手法」、「道路環境計画」、「交通計画分析の手法」、「交通計画の手法」及び「プロジェクト評価方法」（講義）
- 2 月 1 日 菊水ライン(株)：道路マーキングの実演及び施設見学
- 2 日 金沢市都市再開発の現場見学
- 4 日 近畿地方建設局：大阪市都市計画の概要説明  
北大阪流通センター：流通センターの概要説明及び見学
- 5 日 神戸市役所：神戸市新交通システム及び道路トンネル見学
- 8 日 日本道路公団：本四架橋、児島・坂出ルート見学
- 1 0 日 広島市内都市計画プロジェクト見学

・視察研修の例（1982年7月5日～7月18日）

- 6 日 J I C A：オリエンテーション及び表敬訪問  
建設省及び警察庁：表敬訪問
- 7 日 科学警察研究所：施設・研究概要説明  
日本道路公団（本社）、日本の道路、高速道路網について
- 8 日 日本道路公団（千葉）：高速道路交通管理システムの見学
- 9 日 警察庁：日本の交通規制管制について  
首都高速道路公団：都市高速道路網について
- 1 2 日 近畿地方建設局：大阪南港新交通システムの見学
- 1 3 日 近畿地方建設局：ポートライナー、ポートアイランド及び神戸港の見学
- 1 5 日 土木研究所：施設・研究概要説明

#### 4.3 研修の評価

一般研修において、その内容は総花的であることもあり、新たにためて各インストラクターの専門分野に従った専門研修を希望する者が多い。そのことは、JICA研修を終えた者が、各種のスカラシップを得て、日本、アメリカ、カナダ等の大学院に留学するケースが多いことでも分る。短期間の総花的な研修と並行して、TTCの中心インストラクターとして活躍を期待される者に対しては、日本の大学や研究機関等で一定の分野につき、ある程度の長期間研究ができるような研修も必要であろう。







## 5. 調査研究活動

### 5.1 概要

TTCにおける調査研究活動は、TTC発足当初より、フィリピン人インストラクターの実務経験を補うため、行なわれてきた。

発足当初から、JICAの援助で行なわれていたダバオ、セブの都市交通計画へ、積極的に参加するとともに、メリノール大学より委託を受け、大学構内及び周辺道路の交通調査、計画を行った。

また、TTCで実習用に供与した信号機及び交通管制施設を設置するための種々の調査も行われた。

こういった実績をふまえ、また、訓練活動に使用する各種データを収集する必要性、インストラクターの実務経験に基づく指導の必要性及び、TTC活動の評価の向上に伴う、他機関の要請等により、TTCにおける調査研究活動は重要性を増してきた。1980年11月に結ばれた新しいR/Dには、基礎的な調査研究活動を行う事が明記された。

その後、マニラ都市圏交通改善計画(MOTC)のための、基礎的な調査及びコンピュータープログラムの作製、P構内の交通計画、ケソン大通りの交通管制システムを用いた種々の調査を行っている。

1982年8月には、それまで組織上の名称だけで実体のなかった調査部が組織化され、現在部長以下3名の職員が主として調査に関する業務を行い、研修部のインストラクターとともに、調査研究を行うという形となっている。

### 5.2 調査研究活動の内容

#### A ケソン通り交通制御スタディ

##### (1) 目的

本来の目的は、ケソン通りにおける信号機システム設置による各種効果を評価することであったが、システム設置後、長期にわたり研究が中断されていたこと、及び設置前の各種データが散逸し入手できなかったため、次のように本研究の目的を変更した。

「ケソン通りの信号システムの運用を見直し、その改善を図る。」

##### (2) 調査の経緯

研究グループそのものは、昭和55年から存在したが、実質的な調査研究活動を開始したのは、昭和56年12月からである。活動開始後、道路工事等で、途中研究が中断されたが、昭和57年12月、研究レポートの作成により、すべて完了した。

本研究は当センター独自の研究であり、研究予算は「エンジニアリングファンド」から支出することが認められているが、どの程度支出されたかは不明である。

研究メンバーは、当センターのスタッフ2名と日本人専門家1名である。

調査研究は、次のようなステップで行われた。

- a) 評価のための事前調査（走行調査及び従道路の待行列調査）
- b) 信号制御パラメータ検討のための交通量調査、交通容量調査及び走行調査
- c) 信号制御パラメータ（サイクル、スプリット、オフセット、パターン選択基準）の検討、試行及び調査
- d) 新パラメータの設定及び評価のための事後調査
- e) 調査研究レポート作成

### (3) 結果の概要

本調査研究による信号制御パラメータ改善の結果、調査対象区間における旅行時間は、平均 %、信号待ち回数は平均 %、信号待ち時間は平均 %減少した。

その他、本研究の結果、場所によっては、交通容量が計算上と実測上とで大幅に異なり、その原因は、交差点直近におけるジブニーの2重停車、横断歩行者による左折車両の通過妨害等であることが明らかになった。

## B 走行者交通事故調査

### (1) 背景

フィリピンの交通事故における死亡率は、先進国と比べ、人口当たりではやや低いが、自動車登録台数当たりでは、13人/10,000台と、かなり高い。特にメトロマニラにおける事故について言えば、約75%の死傷者は歩行者であるとされていた。この数値は他の諸国と比べ、異常に高いものであった。

TTCの長期専門家の小林実氏は1980年7月から1981年3月にかけて、マニラ西警察署及びTTCスタッフの協力を得て、この歩行者事故についての事故分析を行った。

本調査の目的は以下の4点であった。

- 1) フィリピン国が将来独自に行うであろう交通事故解析の指針となるものを作成する。
- 2) 歩行者事故を最低水準にまで減少させるための対策の確立。
- 3) 現在使用されている事故調書の様式に対する改善策あるいは使用法に対する指差。
- 4) 交通事故に関する、他の都市や地域との比較・分析。

### (2) 調査の概要

事故調査データは、各警察署に年毎に保管されている。本調査では、マニラ西警察署に保管されている。1979年の1543件の歩行者に関する事故データが使用された。

マニラ西警察署の管轄は、ほぼマニラ市内（C-2内）で面積38.3km<sup>2</sup>、推定人口は174万人である。

事故分析は以下の手順で行われた。

- ① マニラ西警察署に保管されているデータを、データシートにコーディングする。

- ② キーパンチング
- ③ 比較すべきファクターの選定
- ④ プログラミング及びラン
- ⑤ 解 析

本解析には、T T C に供与されている。ファコム M 1 4 0 が使用された。

### (3) 結果の概要

マニラ市の人口当たり歩行者事故率は、他の先進諸国の都市より、なお、若干高い。特に 1 0 ~ 2 4 才の事故率が高いが、4 才以下の幼児の事故率は低い。

事故の分析から、歩行者事故の大半は多少の方策で避けられると考えられた。交通安全教育は不十分である。

歩行者事故の主要な原因は、歩行者用の安全施設が少ないこと、歩行者が横断歩道以外の所を横断すること、運転手が歩行者にあまり注意を払わないこと等によるものである。

従って歩行者用安全施設を整備し交通規則を守らせるとともに学校教育に歩行者教育を導入することが必要であろう。

## C メリノール大学交通計画

### (1) 背 景

メリノール大学は、ケソン市内にある私立学校で、幼稚園から大学までが併設されている。この大学のあるカティプナン通り沿いには 4 つの大学があり、朝夕の大学周辺の道路混雑は相当深刻化していた。

メリノール大学は、この交通状況を改善するため、大学構内及び周辺道路の交通調査及び交通計画について、1 9 年 T T C に依頼してきた。T T C では、この依頼を受け、調査委員会を設け、調査計画を行った。

### (2) 調査概要

調査は以下の項目について行われた。

- a) 現状の交通関連施設、学生数、スクールバス運行状況等の把握
- b) 交通量調査、旅行時間調査及び自家用車通学通勤者に対する O D 調査
- c) 個人に対するインタビューによる、交通改善に対する意見、要望等の調査

### (3) 調査結果の概要

上記調査に基づき、T T C の報告書では下記の計画を提案している。

- a) 大学構内道路の建設
- b) 大学構内道路の交通処理計画、具体的には特定時間帯の一方通行化、ゲートの閉鎖等
- c) 駐車場の建設
- d) カープールの促進
- e) スクールバス運行計画の改善



f) 授業開始時刻の調整

なお、道路建設及び駐車場建設に関しては、建設コストの概算を行っている。

D UP構内交通調査

(1) 背景

TTCのあるUPの構内の道路はUP構内の利用者ばかりでなく、UP東部にある、MWSの事務所やカティブナン通り沿いの、メリノール大学やアテネオ大学へ行くための通過道路としても使用されていた。通路の交通量は年々増加し、UPの学生や職員及びジープニーの管理者等からも、交通問題の改善の要望がでてきた。

これらの要望に対処するため、1981年 月、UPの学長は、TTCにUP構内の交通調査及び改善案の提案を求めた。

TTCではそれを受け、1981年9月に委員会を設け、交通調査・計画を行うことになった。委員会のメンバーは以下の通りであった。

本調査は2つの部分に分かれており、フェイズ1では、現在ある交通問題に対する短期的な改善策を、フェイズ2では、将来の交通需要を考慮したうえでの交通政策・計画を取り扱うこととしている。フェイズ1については1982年3月に報告書が提出されており、フェイズ2については現在引き続き調査中である。

(2) 調査概要

フェイズ1及びフェイズ2の調査計画は以下の通りである。

a) フェイズ1

1. データ収集

- ・道路ネットワーク・巾員・歩道の有無等道路の現況調査
- ・信号・標識及び一方通行等の交通管理の現況
- ・公共輸送機関の現況
- ・駐車施設

2. 交通調査

- ・コードン調査
- ・ルートOD調査
- ・交差点交通量調査
- ・速度調査
- ・交通事故解析
- ・駐車調査

3. 調査結果及び交通問題の解析

4. 交通改善のための施策提案

b) フェイズ2

フェイズ2では、フェイズ1で行った施策について評価すると共に、将来の交通需要に対処するための調査を行う。

1. データ収集
  - ・ フェイズ1の評価のための交通調査
  - ・ OD調査（インタビュー及びコードンライン調査）
  - ・ 土地利用及び社会経済調査
2. フェイズ1の事前事後調査の解析
3. 発生交通量の予測モデル作製
4. 現況OD及び将来ODの作製
5. 交通機関別配分
6. 将来交通量予測

(3) 結果の概要

フェイズ1調査の結果から、TTCは以下の提案を行っている。

- a) ジープニールートの変更
- b) UP構内通過交通の排除
- c) 駐車場新設計画
- d) 交通標識の改善

E LRT交通管理計画

(1) 背景

軽電車鉄道（Light Rail Transit = LRT）プロジェクトは、マニラ市の交通混雑を解消するための公共交通機関として計画された。計画はMOTCにより作られた特別の機関LRT公社によって行われた。最初の建設はTaft Rizal線で行われ1984年開業を目ざし、現在建設中である。

LRTは既存の主要街路リサール通りとタフト通りの中央を高架で通るよう計画された。リサール通りはマニラ及びカローカンを結び、タフト通りは、マニラとパサイを結ぶ主要道路で、ジープニーを始めとする交通量の非常に多い道路である。LRTの建設に際し、この2本の道路の通行を禁止する必要があり、建設中の交通切廻しや交通管理計画は非常に重要であると考えられた。

LRT公社は1982年4月、LRTの建設に先立ち、これらの問題を解決するため、TTCにLRT建設中の交通管理計画の作成を委託した。TTCではこの委託を受け、Rick Siguaを中心とした委員会を設け、交通切廻し計画を作成した。

(2) 基本方針

交通管理計画の基本的な考え方は以下の通りである。

- ① 建設中は建設を優先し通過交通は認めない。但し、路側へのアクセスは確保する。
- ② 建設区間を切廻しルートに合わせて分割する。
- ③ 切廻しルートの選定は、交通の遅れ、距離・コストを優先し、運用手法も合せ考慮する。
- ④ 公共輸送機関を優先する。
- ⑤ 現況の交通をできるだけ、変更しない。

### (3) 計画の概要

本計画は上記方針のもとに以下の手順で行われた。

- ① 現況調査、交通特性（交通量、車種別混入率、時間変動、バス・ジープニールート）、道路特性（道路の種類、容量、舗装状況、路側の状況）、周辺の土地利用状況（路側の開発状況、交通発生機関）、及び交通管理の現況
- ② 現況調査で集められたデータから、代替ルートの選定
- ③ 建設段階に合わせた建設区間の選定
- ④ 建設区間・時期別の代替ルートの計画及び交通管理計画の作成

### (4) 評 価

現在（1984年12月）LRTの工事は順調に進んでおり、本調査の結果による、交通切回しも予定通り行なわれているようである。

その結果、現在までのところ、特に問題となるような所はないようであり、一応本調査は評価できよう。

## F コンピュータープログラム "TRAN SIGN" の開発

1980年6月、交通計画コース担当の井田専門家は、マストランジットのネットワーク上の最短経路を探索するアルゴリズムを提唱した。提案の趣旨は、バス・鉄道などのネットワーク上で最短経路を決める際に、乗換えが生じた時にペナルティを課するというやり方では不完全で、途中まで最短経路でないルートが最短になる可能性があるというものであった。また路線の組み合わせにより、複数の同等のルートを考慮する必要があると指摘している。この点で従来知られているアメリカのUTPS、イギリスのTRANSEPTなどは、いずれも不完全であり、新しいコンピュータープログラムを作る意義は大きいと強調した。

交通訓練センターは、この提案を受けて検討の結果

1. 最短経路探索のアルゴリズムばかりでなく、マストランジット交通配分用のプログラムの全体を新しく作成する。
2. プログラムは実用性を考慮して、ユーザーオリエンテッドとし、とくに入出力を扱い易くする。
3. 完成したプログラムは、当時MOTCで計画していたMetro Manila Urban Transport Improvement Project に応用する。

という方針の下に、MOTCの支持をとりつけて、プログラミングにとりかかることにした。

1980年9月、当時の交通計画コースのインストラクター全員と提案者、さらにUPの土木工学科Quiwa教授の応援を得て、プロジェクトチームを組織した。プログラム作業は予定より大巾に遅れ、1981年年初に、出力部を担当していたJose Morteloが留学、同年9月にはQuiwa教授とともに、入力部の作成にあっていたCynthia Daluが同じく留学した。弱体となった交通計画コースのスタッフは、訓練に忙殺されるようになったので、結局提案者だけが残った。

プログラムは1982年1月になりようやく完成した。1982年4月にはユーザーマニュアルとりファレンスマニュアルの一部が作成された。前者は約100ページ、後者は約40ページから成り、最短経路探索の理論を扱っている。

なお完成したマストラジック交通配分用プログラムは、"TRAN SIGN"と名付けられ、次のような特徴を備えている。

1. 機能：入力データのチェック、最短経路の探策、交通量の配分、ユーザー指定による配分結果の印刷。
2. 計算可能規模：250ゾーン、2000リンク（両方向通行）、1200ノード、600路線、10モード。
3. プログラム規模：約9100ステップ、1メインプログラム、129サブルーチン。
4. コンピューターシステム：FACOM M140-F、OS IV/F2。
5. 使用メモリー：内部715KB、外部約32MB。







## 6. その他の活動

### 6.1 SEATAC (South East Asian Agency for Regional Transport and Communications Development)

#### A 都市交通セミナー(クアラルンプール)

##### 1) 概 説

日 時 : 1979年10月22日~26日

場 所 : クアラルンプール ホリディイン

テーマ : 東南アジアにおける都市交通の発展

出席者 : TTCスタッフ

SALVADOR F. REYES, ESTEBAN Q. CASES,  
JR

日本人専門家

石戸 明、柴田正雄

インドネシア MOCHAMMAD SLAMET氏他2名

マレーシア BASHAH BIN NORDIN氏他27名

フィリピン NABOR C. GAVIOLA氏他2名

タイ CHAMNIAN SASIBUTRA氏他2名

シンガポール SEAH CHEE MEOW博士

日 本 並木昭夫、山野 宏、武田宏男、村上正志、  
石崎省二郎、井上 孝、黒川 健

ESCAP REINHOLD WERR

A I T JOHN HUGH JONES博士

SEATAC S. H. SIMATUPANG他6名

オブザーバー 12名

##### 2) 議 事

a 各国からのカントリーレポートにおいて、急激な都市人口に対処して大量輸送機関の建設、都市高速道路の建設あるいはバスの効率的運用、そして信号周期の系統化等都市内の交通対策において各国がいかに関心、そして解決への方策を模索しているかが論じられた。バンコックにおけるバンコック交通管制プロジェクト、シンガポールにおける区域制限手法、マニラにおける軽鉄道の建設等々地域に則した計画が、それらを生みだした背景と共に論じられ興味が尽きない議論が続いた。

b TTCからは「TTCが実施している交通管制システム」と題しエステバン・カセスよりケソンアベニューにセンターの教育訓練の一環として設置した系統式信号制御につ



いて説明を行った。系統式信号の理論やこれらの施設が日本政府の援助プロジェクトとして教育訓練用に設置された点に出席者の関心が集まった。またこの運用に当たっては運転者の遵法精神の高揚や交通情報の伝達システムの必要性が論じられた。

さらに「フィリピンの都市交通技術者の訓練」と題しレイエス博士よりJICAによるTTCへの技術援助とTTCの施設、訓練の内容について説明を行った。各国公共交通技術者の育成には苦勞している現状であり、得るところが多かったようであった。

### 3) 効果と展望

TTCから発足2年にしてこういう国際会議に出席し意見交換の機会を持てたことは、TTCの存在を各国に印象づけるばかりでなくスタッフ、職員一同の励み、誇りとなり有意識であった。特にテーマが都市交通の発展というTTCが目標とする技術分野であり、東南アジア各国に共通する問題、あるいは各国の社会経済等の違い、そして解決のための各国のそれぞれの対応策、それらを踏まえたうえでフィリピンでどのような対応が考えられるか今後のTTCの教育訓練を考えるうえでも非常に参考となる会議であった。我々日本人専門家も東南アジア各国の事情に触れる機会は少なく、この会議には毎年何人かが出席し見聞を広めることが、よりよいTTCでの活動につながるものと確信される。

## B 都市交通セミナー(ジャカルタ・メダン)

### 1) 概 説

日 時 : 1981年10月13日～17日

13日～15日 ジャカルタ

16日～17日 メダン

場 所 : ジャカルタ ホテルインドネシアヒルトン

メダン ホテルダルマデリ

テーマ : 都市交通と環境問題

出席者 : TTCスタッフ

FERDINAND R. BERNAL、OLEGARIO

G. VILLORIA

日本人専門家

近藤 正、米倉俊治

インドネシア MOCHAMMAD SLAMET氏他5名

マレーシア ABU BAKAR SAID氏他3名

フィリピン NABOR C. GAVIOLA氏他2名

タイ KOVIT KUVANONDA氏他2名

シンガポール SEAH CHEE MEOW博士

U. N. ESCAP HEINRICH D. SELLE

日 本 井上 孝、田口二郎、内田洋一、小沢一郎、  
芦見 正

STATAC S. H. SIMATUPANG氏他2名

オブザーバー 22名

## 2) 議 事

- a 会議は参加各国から、各国の都市交通の実態と環境問題及びその対策についてのカン  
トリエレポートの発表、質疑という形で進められた。各国共急激な都市人口の増加、居  
住条件の悪化、交通輸送手段の立遅れ、そして急激な自動車交通の増加に伴う環境問題  
の悪化に悩んでおり、その解決に真剣に取り組んでおり、相互に活発な意見の交換がなさ  
れた。
- b TTCからは「交通問題とそれに取り組むTTC活動」と題し、近藤チーフアドバイザー  
より発表を行った。この論文において、METROPLAN STUDYに基づく輸送  
手段の比率（パーソントリップにおいてジブニーが50%近くを占めること）における  
特徴や、不法駐車、車両故障、無秩序なジブニーの乗降等が交通渋滞をさらに悪化させ  
ていること、さらに小林専門家が行った「マニラにおける交通事故解析（1981年3  
月）」に基づく歩行者事故の重大性を論じマニラにおける交通問題の特性を浮き彫りに  
した。またJICAの援助に基づくTTCの訓練内容を述べ、最後に1982年より、  
日本政府の援助によりTTCにおいて実施される第三国研修について説明し、参加各国  
の興味をそそった。

## 3) 効果と展望

SETAC会議にフィリピン政府とは別にTTCにおいて出席者を派遣したことはTTC  
の活動を広く東南アジア各国に紹介すると共に、各国が持っている問題を知ることがで  
きた点非常に有意義であった。

今回は特にTTCにおける第三国研修をひかえTTCインストラクター2名が会議に出  
席し国際会議というものを認識できたことは特筆すべきことである。上記二人のインスト  
ラクターは帰途シンガポールに立寄り見聞を広めた。また日本人専門家にとっても各国の  
交通技術者と交流を図る機会を得たことは貴重な体験であった。

## 6.2 SOP I (Safety Organization of The Philippines, Inc.)

### A 第9回フィリピン道路安全会議

#### 1) 概 説

日 時 : 1979年5月30日31日  
場 所 : マニラ ハイアットリーゼンシー  
テーマ : 道路の有効利用と交通安全

講演者 : 小林実専門家「アルコールと薬物の運転への影響」

2) 内 容

小林専門家は特に招かれて上記表題につき講演を行った。フィリピンにおいては、飲酒運転は検知する器具、薬品類が整わず野放し状態である。TTCにおけるこの面での教育訓練は当地の警察官に強い興味を与えており、今後この面での整備が課題となっている。幸なことに、当国は、日本ほどの飲酒に対する趣向が強くなくそれがわずかの救いとなっている。

B 第10回フィリピン道路安全会議

1) 概 説

日 時 : 1980年5月21日22日

場 所 : バギオ パインズホテル

テーマ : 交通安全の強化について

出席者 : TTCスタッフ及び日本人専門家(属 憲夫)

2) 内 容

フィリピンの交通事故死者は年間約1,500名、人口約4,800万人、車の保有台数約100万台であるから、対人口比で見るとそれほどでもないが、対車両比で見るとかなりの数字といえる。疫病等他の状況を考えると、交通安全に対する施設、訓練の欠除もやむおえない気がしないでもないが、しかし歩行者を車両から守るための歩道、横断施設等その必要性は高い。毎年一度聞かれるこの会議が具体的施策にどう生かされてゆくか、TTCにおいてアドバイスすべき点も多いように思われる。

C 第11回フィリピン安全協会年次総会

1) 概 説

日 時 : 1981年5月26日27日

場 所 : マニラ ペニンシュラホテル

テーマ : 道路の安全について考える

出席者 : TTCスタッフ及び日本人専門家(近藤正、西田泰、米倉俊治)

2) 内 容

フィリピンにおける道路交通安全のとりくみ方はそれなりに熱心である。特にこの会議には日本から元TTC専門家の小林実氏が「マニラにおける歩行者事故解析について」と題し、TTC在任中に自ら調査解析した論文を発表し、聴衆にTTCの存在と歩行者事故の重大性を改めて認識させた。





## 7. 事業の評価と展望

### 7.1 評価のまとめ

TTCの評価については、すでに1982年10月下旬来比の評価セッションが言及しているのであえての重複は避けることとして、ここでは評価報告書(1982年11月5日、両国で合意署名)に記載のない事項主体にまとめてみる。

#### (1) 技術移転の程度

##### ① 実務経験の不足

この6か年間の努力の結果、技術移転はかなりスムーズに進行したものと評価できる。ただし、TTCのインストラクターは若い人が多く、大学(主としてup)卒業後すぐ実務経験なしに教壇に立つ人が多い。こういう人達も2~3年すると米国、カナダ、オーストラリアといった国の大学に留学し、修士課程を終えて再びTTCのインストラクターに復帰する。この意味では外国の大学で経験を積んだインストラクターが増えて結構なのであるが、依然として実社会の実務経験は乏しいままTTCに復帰してくる。

TTCが訓練センターではなく研究所であればそれでよい。しかし、TTCはすでに社会で活躍している交通技術者を理論・実務の両面から再教育する場なのである。実務経験豊かなインストラクターが望まれるゆえんである。

この欠けている実務面を日本人専門家が補っている訳であるが、比側スタッフのDesk Workを好み、Field Workを好まない性向もこれあり、実務面での成熟にはまだかなりの時間を要するものと思われる。

##### ② コンピューターの応用面での経験不足

1カ年のフォローアップが決められた背景には、コンピューターアプリケーション面での不足が挙げられた。

すなわち、引続きフォローアップを要望するAI-Formにおいては、R/Dに記載されたTTCの活動を全うし、目標を達成するためには、特に以下の分野における日本人専門家の派遣という形での日本政府による技術協力が更に必要とされた。

- i) 交通計画、道路設計、交通工学に関する特に近年における実務的なコンピューターアプリケーション技術の移転
- ii) TTC交通データバンクを維持するためのデータ処理システムの確立
- iii) 発足間もないTTC調査研究部門について、コンピューターを活用しつつ、その技術向上を図る。

この要望はまさしく正鵠を得ている。以上の分野、すなわち、コンピューターアプリケーション面とデータバンクの不足が最も遅れており、かつ今後の技術移転が望まれる分野でもある。

(2) カウンターパートの定着の程度

カウンターパートについては、彼等の一人だち、ひいてはフィリピン側における自給を究極の目標としているが、まれまで特に若いカウンターパートの定着性が悪い傾向にあった。

発足時はそれでも良かったが、特にプロジェクトが若干成熟した4～5年目(1981～82年)にかけて定着率が最悪となった。しかし、1982年夏以降、第1期カウンターパートが留学より帰国し、かつ給与面での改善が行われるに及び再び落着きムードがみられるようになった。

1983年3月31日現在のカウンターパートの総数は32名うち15名が残留、17名は外部へ転職、残留率は46.8%である。

(3) 運営情況(顧問委員会と主席顧問の役割)

LOI 428に基づき、1977年4月12日調印の当初RDではセンターの運営について次のような合意があった。

- 1) 公共道路省長官、公共事業運輸通信省長官及びフィリピン大学学長は、大統領指令428号により設立され国家経済開発庁長官により組織された運営委員会を通じ、共同してセンターの設立及び運営に係る全責任を負うものとする。

上記目的の為に運営委員会は、センターの効果的運営に必要な規制、政策、方針等を制定する。

- 2) 下表のメンバーで設立されたジョイントコミッティはプロジェクトの効果的実施に必要なあらゆる事柄につき運営委員会にアドバイスするものとする。運営委員会は上述の事柄を考慮し、ジョイントコミッティに相談するものとする。

ジョイントコミッティ構成員

日本側	フィリピン側
主席顧問	運営委員会委員長
JICAマニラ海外事務所長	センター所長
	関係機関代表

- 3) センター所長は、フィリピン大学学長の監督と指示の下に、センターの運営に責任を負うものとする。

一方日本側首席顧問は、日本人専門家の助力の下で、技術的事項につき適切な注意を払い、同時に、フィリピン側カウンターパートと密接な連絡をとりながらセンターに必要な技術的及び運営に係るアドバイスを行うものとする。

すなわち、TTCの運営は当初運営委員会(Steering Committee)の手にまかされたのである。そして運営委員会で足りざるは共同委員会(Joint Committee)により補わされることになっていた。しかし、日本側主席顧問が単なるオブザーバーであったことは、後程、特に顧問委員会に運営が移されてから種々の問題発生の原因となった。

その第1点は2年の期間延伸の新しいRDにおいて、TTCの運営は運営委員会から顧問委員会へ移されたが、それと同時に日本側への顧問委員会の招聘が数少なくなり、首席顧問の委員会出席への機会が減じ情報不足を来したことである。

またその第2点は、プロジェクトの効果的実施のためのあらゆる事項につき運営委員会に対しアドバイスすることを標榜した共同委員会は、結局有名無実に終り、その機能を果さず、この面でも日本側の運営参画の道が一時閉ざされたことである。

これに対し、日本側のとった手段は、

- i) 首席顧問及びJICA調整員の顧問委員会への出席を強く要請し、かなり巧妙裡かつ反  
妙裡に顧問委員会に入り込んだこと。
- ii) 比側TTC所長、所長代理、日本側首席顧問、JICA調整員による毎週定例の四者会  
談(情報交換会)を申入れ、事実上の共同委員会に代わるものとし、かつこれを定期的に  
開くことにより情報量を増すとともに相方の信頼関係を著しく増幅させたこと。

の2点である。

今回についてはこのような対応策により一応危機を脱することができたが、今後は当初のRDに首席顧問が運営委員会(又は顧問委員会)の構成一員となるべきことを明記しておく必要性を特に指摘しておきたい。

そうでないと発言権が著しく制限される。相手側が謙虚であればこんな危惧は必要ないが、そうでないのが発展途上国の常であり、一つの反省点として提言する次第である。

なお、次頁以降に重複するが1983年リーダー会議に提出した資料を評価の参考として添付する。

## 7.2 将来の展望

本プロジェクトは2年の延伸を経て1983年4月、ひとまず第1期協力プログラムを終了した。しかし、発展途上国としてのレベルでみれば一応の技術移転を終ったとはいいながら、先進国のレベルでみればまだまだ未熟である。特にカウンターパートの実務経験の不足は致命的である。

従って、本プロジェクトには何らかの形のフォローアップあるいはPhase II Programmeの要ありと思料される。

以上に関連して、比側は昨年来、将来構想として訓練部、研究調査部、学術部門を併せ備えた交通研究所構想を打出し、1982年10月評価ミッションチーム来所の折にも説明があり、1982年12月には新たにINTAR構想としてこれを打出し、さらに1983年2月にはフォローアップのための3名の専門家の要望、新規アカデミックスタッフとしての2名の専門家の要望(A1-Form)が出されているところである。



昭和57年度第6回技術協力センター・プロジェクトリーダー連絡会議・問題点・要望事項等

プロジェクト名：フィリピン道路交通訓練センター  
 リーダー名：木倉正美

1. 項 目	2. 問 題 点	3. 2. に対してもった対応処置	4. 要 望 事 項
<p>1. プロジェクトの活動概況                      (昭和57年度の計画と実績)                      イ R/D マスタープランと協力実施との比較                      (マスタープランを修正した場合にはその理由、計画実施遅延の場合はその原因)</p>	<p>① 発足時、公共道路省の管轄下にあったTTCが設立4年を経て運輸通信省の所管に移った経緯と、TTC発展5カ年計画に示された将来像とを見るとき、比側は道路交通訓練分野のみならず、鉄道、海運、航空等の分野も含めた運輸訓練センターという構想を期待しているようである。                      しかし、このような総花的な訓練センターは実質を伴い得ない可能性があり、中心となるべき道路交通の認識も薄れる恐れがある。</p>	<p>① 総花的な訓練センター構想は未だ時期尚早であり、当面、道路交通部門の充実を図り、それから拡張しても遅くはない。                      この観点で現在は一応従来システムの維持、発展に努めている。</p>	
<p>ロ 技術移転のための具体的活動                      (計画・実績・主要活動)</p>	<p>① 教科書に書いてあることに関する理解はほぼ完了している。問題は具体的な応用・実務経験についてである。                      このため、訓練では十分に理解できることであっても実務への応用に多い、ソフトハード両面で種々の困難に遭遇しているのが実情である。</p>	<p>① 教科書だけの習得ではなく、現場へ出掛けての観察、設計を推奨している。</p>	<p>② パソコンコンピュタ導入の方向で57年度の機材を要求している。                      第1プライオリティとして検討されたい。</p>
	<p>② 大型コンピュタの使用については、未だ慣れていないようなので、今後は対語型のパソコンコンピュタを導入し、それによりコンピュタに親しませることが先決と思われる。</p>	<p>② 大型コンピュタの使用については、未だ慣れていないようなので、今後は対語型のパソコンコンピュタを導入し、それによりコンピュタに親しませることが先決と思われる。</p>	<p>③ スタッフの充足を57年度より始め、現在7研究を完成、4本を続行中。                      しかし、データ不足のため、主として手法解析方法等に関する研究主体である</p>
	<p>③ 本プロジェクトが2年間の延長(56.4~58.4)されたときの眼目の1つに、調査・研究部門の充実があったが、比側の準備の遅れもあり2年間十分に活動したとは評価できなない。                      よりやく57年度より本格的に活動を始めるに過ぎない。</p>		

1. 項 目	2. 問 題	3. 2.に 対 して と っ た 対 応 処 置	4. 要 望	事 項
<p>1-1-1 カウンタパートの育成計画と実績 (分野別・人数)</p>	<p>① カウンタパートの一人だち、しいてはカウンタパートの自給を究極の目標としているが、とくに若いカウンタパートの定着性が悪い傾向にあり、新採用者に対しては全く初めから指導する以外にない。 したがって技術移転がなかなかスムーズにいかなない為訓練科目のローテーション計画もたてにくい。 ② 発足時は各コース3名、計9名いずれも専任であった。しかし、第2期所長になるに及び定着率悪くなり56～57.6最悪であった。ただし、57年度以降第1期カウンタパートが留学より帰国し、かつ給与面の改善が行われるに及び再び密着きムードがみられるようになった。 ③ 現在までのカウンタパートの総数は32名うち1.7名が奨励、1.5名は外部へ転職、内訳は欄外の通り</p>	<p>① たえず、カウンタパートと話し合い、定着に努めている。又、運営サイド(所長等)にも申し入れより定着し易いよう処遇の改善等も要望している。それ故か昨年度以降かなり状況は好転した。 ローテーション計画についても訓練担当を適宜変えるなど、カウンタパートの担当範囲が広がるよう工夫している。</p>	<p>① 大学の機関に職員が定着する条件は「給与のよいこと」と「外国留学の機会が多く与えられること」といわれている。 しかし、日本への留学は言葉の面で不利であり余り日本には来たがらない。 したがってJICAで研修の終わったあとアジア諸国の視察旅行をやらせるとかアジアの適当な大学(exarple AIT)へ留学の機会を与える、とかの愚案を是非考慮したい。</p>	
<p>ニ 研究・人材養成の成果 (分野別・人数)</p>	<p>① 毎期、訓練定員はほぼ維持しており、9期終了の現在、当初予定の360名(1期40名)に対して、345名が卒業している。 ② 訓練生の質については、そのレベルと評価する一般テストの結果によれば、質の恒常的低下がみられたが、第8期を底に、第9期には急激な上昇がみられた。 特に第9期の正規コース内の成績はこれまでの最高を記録した。 ③ 研究・調査については56年の延伸時より力を入れ始め本格的には57年度より始めたが、まだみるべきものなし現在スタッフは6名</p>	<p>② 訓練効率を高めるためには、訓練生を派遣する当該官庁において、選考基準を高めるよう要請する必要がある。 ③ 特に指導に力を入れているところである。</p>	<p>① 訓練成果(実績) 実施回数 修了者 正規訓練コース 9 345 計画 88 工学 84 管理 175 地方セミナー 11 612 コンピュータプログラム ニングコース 4 13 陸部警察官交通管 理セミナー 2 60 安全教育セミナー 1 54 第5国研修 2 45 SORTAC 23 ASCOTT 20</p>	

1. 項目	2. 問題点	3. 2.に対してとった対応処置	4. 要望事項
<p>ホ 広報活動の実施状況</p> <p>2. 日本側の協力 (実績及び計画との対比)</p> <p>イ 専門家派遣 (分野別・人数)</p> <p>ロ 研修員受入 (分野別人数)</p> <p>ハ 機材供与 掘付済主要機材 搬送中主要機材</p>	<p>TTCもマニラ市内ではすでに有名であり、特にその広報の必要性は認められない。 しかし地方都市での知名度は低く、今後地方セミナーなどで積極的広報が望まれる。</p> <p>①この国ではどんなに講義内容が良くても、英語が poor だと評価されない。 長・短期専門家とも、英語会話能力の秀れた人の派遣が望まれる。</p> <p>②短期専門家は、特に講義内容に留意しなければならぬ。短期であるため、特に教材は簡潔明快なものが必要</p> <p>③これまでの長期専門家の派遣は次のとおり人数の不備は特になし。バランスも良い。</p> <p>①これまでの研修員の受入れは別表のとおり。 高級 6名 准高級 3名 インストラクター 15名(プロパー 12名 出向 3名) 訓練生 7名 (合計 31名)</p> <p>②本年度は3名の予定 しかし、当センターの内部事情で、当初計画したスケジュールで送り出せなかった。 (要請提出期限の大幅遅れ)</p> <p>①供与機材がプロジェクト最終年度となる本年度の場合、取扱い説明、指導が不十分になる恐れがある</p>	<p>地方セミナー(年2回、地方都市)において、議会で説明あるいはスライドなどを添って積極的に広報活動を展開中。 TTC作成の運転マナー・安全運転啓蒙フィルムもTTCの広報に役立っているところである</p> <p>①現地の英会話教室へ出席したりしている。</p> <p>②来比前の調整が不可能の場合、来比後の調整、ハンドアウトの変更、タイプライティング等努力している。</p> <p>③当初計画に即するより比制に格促した。</p> <p>④該当する専門家の来比を要望中 (フォローアップ専門家)</p>	<p>安全運転教育関係のスライド、フィルムは更に補充、補足の必要がある。</p> <p>①最低JICA検定2級の取得が望まれる。</p> <p>②来比前にTTCの長期専門家と事前調整が特に望まれる。</p> <p>長期専門家 首席顧問 4名 交通所長 5名 交通工学 5名 交通管理 9名 調整員 3名</p> <p>JICA研修の内訳 (本年予定) ○高級 6 ○准高級 3 ○カウンターパート 12 (2) 出向 3 (1) 訓練生 7</p> <p>①そのためにも機材の説明・指導のできる専門家のフォローアップが是非必要である。特に本年のメインとなるパソコンコンヒュータについては必ずそれを指導できる専門家が必要</p>

1. 項 目	2. 問 題 点	3. 2. に対してとった対応処置	4. 要 望 事 項
<p>3. 相手国の対応 (実績及び計画との対比) イ カウンターパートの配 置</p> <p>ロ プロジェクト運営予算 人件費、教材費、賃機 材費、建物維持費、水 道・光熱費等 項目別</p> <p>ハ 建物・施設の準備状況</p>	<p>② 供与機材のうち、英文のマニュアル添付のな いことを指摘されることが多い。</p> <p>① 訓練以外の業務が増加しているため、個々の カウンタースタッフの負担が過大になりつつあ る。一方経験のあるカウンタースタッフの海外 留学、他機関への一時派遣により欠員が生じ がちである。</p> <p>② コース内でカウンタースタッフの配分が不均衡 である。特に計画コースは一時新卒の経済出 身の2名の女性インストラクターだけという 実情である。</p> <p>③ 所長に人事上の権限が集中しすぎるため所長 の一人存で何でも動かしすぎる。 その例として、所長の一存でカウンタースタッフ がセンター、業務以外の活動に使われること があった。この際、日本人専門家への事前 の相談があまりなく、問題となった。</p> <p>① 訓練開始以来、4年間にわたり運営予算(比 側の)が増額されなかったが、本年よりより やく若干の増額が認められた。しかし諸物価 の高騰が激しく、事務用品の不足、燃費、管 繕費の不足等をきたしている。</p> <p>① 建物が若干、老朽化して来たが、おおむね良 好である。 ② 将来(来年度)構想として、3階増築を要求 (TTCから比側財政当局に対し)している が、見直しはあまり明くない。</p>	<p>② 翻訳を心掛けてはいるが、実際には余裕がなく 困難である。</p> <p>① 各コースの共通教科を合同講義とするなど調 整を図っているが、訓練生のレベルがコース により異なるため難しい。 しかし、昨夏以降、優秀な第1期のインスト ラクターが海外留学より復帰しつつあり、事 柄はかなり改善されてきた。</p> <p>② 依然、状況は改善されていないが、第1期イ ンストラクターの1人が海外より復帰しかな り補強された。</p> <p>③ 首席顧問を通じて改善を申し入れているところ である。</p> <p>① 通章修築している。 特に中庭はかなり変更して使い易くした。</p>	<p>② 英文マニュアルの添付をメーカーに対して義 務づけられたい。</p> <p>③ 当初のR/Dで、首席顧問が相手国に意見を 述べられる公式機会を設定するよう戻された たい。 顧問委員会のオブザーバーでは如何ともしが たい。</p>

1. 項 目	2. 問 題 点	3. 2. に対してとった対応処置	4. 要 望 引 項
<p>3-1-2            専門家に対する便宜供            与</p>	<p>大きい問題はないが、専門家のスケジュールど            おりの配車に支障の生ずることがたまにある。</p>	<p>専門家の個人車、または現地業務費にはタクシー            を利用している。併せて改善を申し入れられてい            る。</p>	
<p>ホ その他(顧問委員会と            情報交換会)</p>	<p>2年の延伸がなされてから、TTCの運営委員            会は顧問委員会と名称が変わったが、同時に日本            側への運営参面の招聘が来なくなり比側だけで            顧問委員会が開催されることになった。            首席顧問はオプザーバーであり、委員会へ無理            に出席することでもできず、このため情報不足が            生じ困惑した。</p>	<p>首席顧問及びJICA調整員の顧問委員会への            出席を強く要請した。            さらに、比側TTC所長、所長代理、日本側首            席顧問、JICA調整員による毎週定例の四者            会談(情報交換会)を申入れ、これを定期的に            開くことにより、情報量を増すとともに、相方            の信頼関係を著しく増幅した。</p>	<p>今後は当初のR/Dに首席顧問は運営委員会            (又は顧問委員会)のメンバーとなるよう明記            しておく必要を特に指摘しておきたい。            そうでないと発言権が著しく低下する。</p>

これを受けた日本政府は、慎重討議の末、1983年4月8日縮少延長のRDを締結し、一応1カ年間のフォローアップを決定した。

その内容は、

(i) コンピュータの技術移転を中心に、計画工学、管理各1名の専門家を派遣する。

(ii) しかし、管理については長期の代りに何名かの短期専門家でもかなう。

とするもので、とりあえず1984年までの体制は整った。

問題はそれ以降であり、今のところ次のような将来構想と展望をいただいているところである。

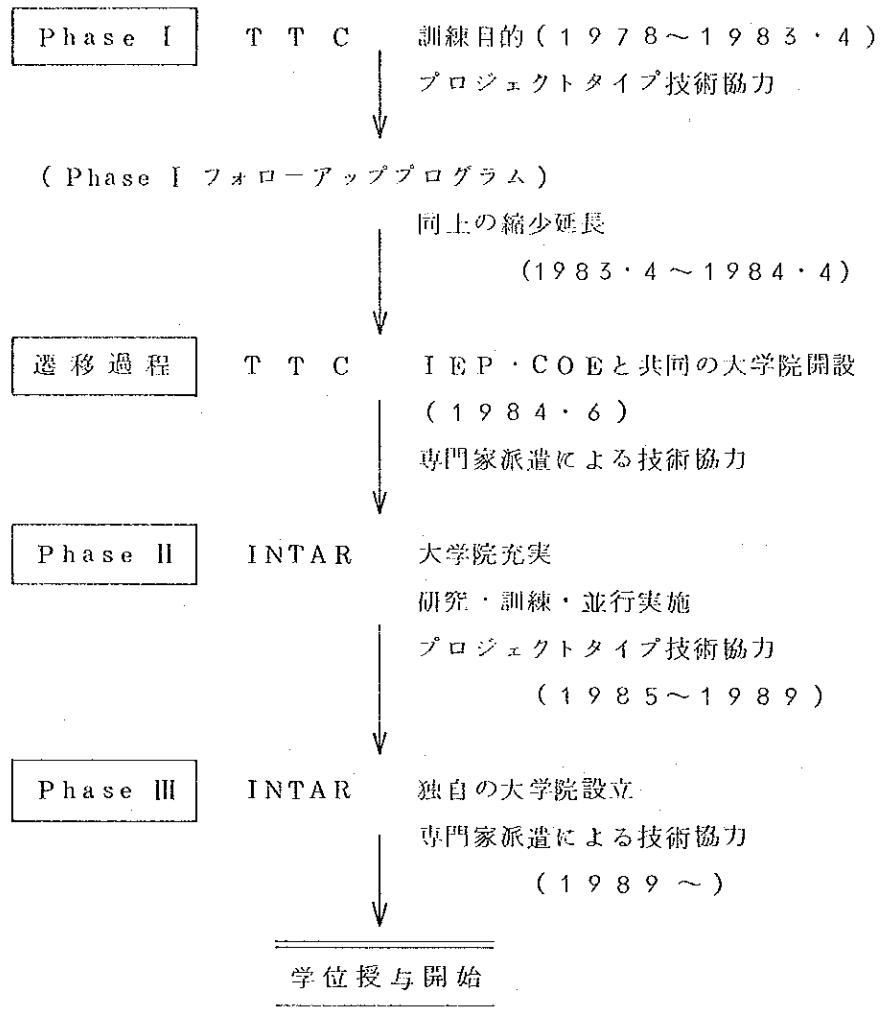
(背景)

TTCは現在MOTC(運輸通信省)の予算により顧問委員会の監督の下に運営されている。UPのSpecial Unitであるが、これに大学院を設置してUPのRegular Unitとすることは、LOI1080号及びTTC57年発展計画(1981年10月)で定められており、それに至る過程として、このTTCをSpecial UnitとしたままCOE(College of Engineering)IEP(Institute of Environmental Planning 環境研究所)と共同して大学院の講座を開設する必要が生じた。これはIEPがかって歩んだ過程と同じである。

これの実現のため比側は交通研究所(Institute of Transportation and Research, INTARと略称)計画を作成しJICAによる新しいプロジェクトタイプの技術協力を要請しているものである。

( T T C の将来構想 )

— 学位授与機関となるまでのプロセス —



交通研究所並びに新たな J I C A 技術協力に  
関する提案 ( 1 9 8 2 年 1 2 月 ) について

1. 比国政府は T T C の発展と日本政府の新たな技術協力の開始を期して、標記提案書を近々日本政府に提出する予定である。
2. 本提案書は、U P はもちろん、政府関係機関全ての合意の下に作成されるものである。
3. 内容は、5 章と付録とにより構成され、それらの概要は次のとおりである。

第 1 章 背 景

T T C は、1 9 7 6 年 7 月 1 2 日付 L O I 4 2 8 号により設立され、以後日本政府の技術協力の下に第三国研修を含む多くの研修を実施し、数多くの有為の人材を国内外に送り出してきた。

第 2 章 交通研究所案

国家としてのより高度な交通技術者養成の必要性和、L O I 1 0 8 0 号にも示されている通り、T T C を更に U P の Regular Unit とすべきことを目指して発展させるという国の既定方針とに対処するため、次のことを行う。

1. 新たな L O I により T T C を I N T A R ( Institute of Transportation and Research ) と改称し、同時に機能を拡充する。
2. 1 9 8 3 - 8 4 Academic Year を初年度として I N T A R I E P ( Institute of Environment Planning )、C O E ( College of Engineering ) 協同の Academic Program を開始する。

これにより、新たに交通計画及び交通工学を専攻分野とする修士課程を新設する。更に引き続き、School of Economics 及び School of Business Administration に対してもこの輪を拡大し、それぞれの修士課程に専攻分野を新設する。

3. I N T A R の組織は、概ね現在の T T C の組織を引継ぐものとするが、訓練部門を教育部門と改称して、訓練の他に大学院教育等を担当するものとする。

第 3 章、第 4 章 技術協力の内容

以上を実現させるため日本政府に対し、以下のような J I C A 技術協力を要請する。

- (1) 1 9 8 3 年 4 月 1 2 日以降の継ぎとして、専門家 5 名の派遣を要請し、うち 3 名は M O T C を通じて、2 名は U P を通じて要請する ( A 1 From は別途提出 )。
- (2) I N T A R 設立に伴う J I C A の技術協力としてプロジェクトタイプの技術協力を要請し、その期間は 1 9 8 3 ~ 1 9 8 8 年とする。1 9 8 7 年を目途に I N T A R を U P の Regular Unit とする。

技術協力の内容は、専門家の派遣、機材の供与、カウンターパート研修、スカラーシップ等とし、Academic Program の共同実施機関である I E P、C O E も



これの対象機関に含むこととする。

## 第5章 実施計画

比国政府は、INTAR発足に必要な建物等の整備を行うほか、修士課程への学生の派遣等関係機関の協力態勢を整える。

## 付 録

LOI 428号、PD 1295号、LOI 1080号等

付 録



付録 1 年 表

1974年	8月12日	アキノ公共道路大臣より比国外務大臣にTTC設立のために日本の協力を必要とする旨の要請
1975年	3月7日	比国外務省より沢木駐比大使宛に口上書によるTTC設立に対する協力要請
1975年	7月3日	アキノ公共道路大臣より沢木駐比大使宛にTTCについての協力要請
1975年	9月23日	沢木駐比大使より外務大臣宛にTTCの必要性についての説明
1976年	2月9日	事前調査団来比
	～ 2月23日	
1976年	7月12日	TTCの設立に関するLOI No. 428発布
	12月1日	TTCの設立に関し、フィリピン大学(University of the Philippines)、道路局(Department of Public Highway)および公共事業運輸通信局(Department of Public Works, Transportation and Communication)が合意書を交換
1977年	2月1日	TTC初代所長にDr. Salvador F. Reyes就任
	3月28日	実施協議チーム来比(4月12日、R/Dに調印)
	～ 4月14日	
1978年	1月11日	石戸 明博士TTC初代主席顧問として着任
	2月28日	TTCをNational Engineering Centerの傘下とする Presidential Decree No. 1295発布
	2月中旬	日本人専門家によるインストラクターに対する訓練開始(4月末まで続く)
	5月15日	TTCビルディングの完成に伴い本拠を移動
	6月2日	第1期訓練開始
	8月末	UP構内の教材用交通信号機設置完了
	9月2日	TTCの開所式
	10月30日	第一期訓練終了(修了者44名)
1979年	1月5日	第2期訓練開始(6月4日まで)
	2月16日	Metro Cebu Land Use & Transport Study Project にインストラクター参加
	3月6日	石戸 明主席顧問、海外技術協力に関する外務大臣表彰受賞

5月 4日	コンピュータシステム第一次分(MACC6500、PFU 400)到着
7月 9日	第3期訓練開始(11月23日まで)
7月23日	Ministry of Transport & Communicationの設立を促すPresidential Executive Order №428発布
12月 3日	地方セミナー開始(12月14日まで)、Iloilo, Cagayan De Oro, Davao で開催)
12月下旬	ケソン通り交通信号システム完成、試験運用開始
1980年 1月21日	第4期訓練開始(6月4日まで、General Examinationを初めて実施、以後每期実施)
3月11日	第三国研修実施調査のための調査団来所(加藤淳平団長他2名)
6月30日	初代所長Dr. Salvador F. Reyes 辞任
7月 1日	2代目所長にBenedicto Selirio 就任
	Constabulary Highway Patrol Group 26周年記念でTTC感謝状受領
21日	第5期訓練開始(11月12日まで、今期より訓練期間が15週間に短縮される)
7月 末	新しいコンピュータシステム(F140)の据付完了
10月 6日	TTC評価チーム来所(岩井彦二団長他4名)
17日	TTCプロジェクトの延長に関するR/Dに調印(1983年4月12日まで協力期間が延長となる)
11月11日	LOI №1080発布(Steering Committee が Advisory Committee となり、議長もDPHのDirector Jose F. David から MOTCの大臣 Jose P. Dans, Jr. になる)
12月	Light Rail Transit 工事に伴う交通処理問題に関して Construction & Development Corporation of the Philippine より調査を受託
12月 8日	地方セミナー開始(12月18日まで)、Legaspi, Bacolodo, Zamboanga で開催)
1981年 1月19日	第6期訓練開始(4月30日まで)
5月12日	幹部警察官を対象とした3日間のセミナーを開催 (Traffic Management Seminar for Senior Police Officer, 6月上旬にも開催)

7月11日	第三国研修事前調査団来所（山村 寛団長他4名、7月19日まで滞在）
7月28日	地方セミナー開始（8月5日まで、Cebu, Tacloban, Bagio で開催）
8月17日	第7期訓練開始（11月27日まで）
10月 3日	第三国研修実施協議団来所（大槻章雄団長他4名、10月9日まで滞在）
8日	第三国研修に関するR/D調印
10月31日	Selirio 所長、近藤主席顧問、TTCの活動説明のために Channel 4 にテレビ出演
11月24日	交通安全教育用映画の製作を National Media Production Center に委託
1982年 2月15日	第8期訓練開始（5月28日まで）
2月26日	MOTC、Dans 大臣より NEDA 経由で在比日本大使あてに、TTCプロジェクトに続く新プロジェクトの要請書が提出
3月 7日	第三国研修開催（SORTAC: Seminar on Road Transport in Asian Countries、3月20日まで）
25日	Bureau of Land Transportation 主催の車検に関するセミナーに日本人短期専門家参加（Motor Vehicles Inspector's Course Seminar、3月27日まで）
30日	交通安全教育用映画完成（タイトル: Driving Sately）
6月20日	第三国研修実施協議チーム来所（小川裕章団長他2名、6月27日まで滞在）
20日	TTCとTraffic Control Center の交通管制システムの結合完了（以後、ケソン通りの交通管制もTTCが行うこととなる）
23日	第三国研修の名称ASCOTTに決定（A Seminar Course on Transport Technology）
29日	来比中の外務省年次協議ミッションに対し、TTCに続くIN TAR（Institute of Transportation and Research）の詳細計画が提出
7月 5日	Board of Transportation 職員を対象としたセミナー開始（Public Transport Network Planning Course、7月30日まで）

1982年 7月 6日	地方セミナー開始(7月1-4日まで、SaniFernando, Lucenaで開催)
7月26日	第9期訓練開始(11月5日まで)
10月24日	TTC評価ミッションチーム来所(依田和夫団長他4名、11月6日まで)
11月 7日	第三国研修本コース開始(A SENIOR COURSE ON TRANSPORT TECHNOLOGY、12月19日まで)
12月20日	第三国研修評価ミッション来所(山村 寛団長他2名)
2月14日	第10期訓練開始(5月27日まで)
3月25日	JICA主催TTCプロジェクト終了パーティ
4月 8日	TTCプロジェクトの1年間フォローアップのR/D調印 TTC主催終了パーティ
4月12日	フォローアップ協力開始

付録2 主な来訪者

1979年	1月18日	外務省対比技術協力映画班
	2月14日	山田監察官(行政管理庁)
	3月13日	小松院夫啓(日本教皇) Cardinal Julio Rosalio
	4月26日	Mr. S. H. Simatsupang (Director of SEATAC)
	5月23日	Mr. Okong(ケニア、ナイロビ市都市計画委員長)
	28日	増井健一(慶応大学教授)
	7月25日	梶 秀樹(Asian Institute of Technology 助教授)
	26日	小栗良和(国際建設技術協会理事長)
	30日	John Black(助教授、University of New South Wales, Australia)
	8月 3日	広田孝夫(JICA社会開発協力部長)
	30日	鈴木敏郎(SEATAC事務局長)
	10月 3日	西山 (外務省経済協力局参事官)
	5日	柴崎敏郎(会計検査院事務総長)
	18日	総理府派遣映画班
	11月 5日	三井 修(警察庁次長)
1980年	2月15日	渡部与四郎(建設省都市局技術参事官)
	18日	竹内俊雄(防衛大学校教授) 土屋昭彦(土木研究所河川部長)
	26日	岡村総吾(日本学術振興会理事)
	3月13日	宇留野藤雄(日本大学教授)
	31日	佐々波秀彦(筑波大学教授)
	4月10日	橘 敬一(JICA理事)
	28日	有田圭輔(JICA総裁) 国際交通安全学会調査団 岡 並木(朝日新聞) 新谷洋二(東京大学教授) 越 正毅(東京大学教授) 鈴木辰雄(同学会)
	6月 4日	田中秀穂(在比日本国大使)
	24日	飯島昭美(JICA社会開発部長)



1980年	8月28日	齊藤 優（中央大学教授）
	9月17日	増田 盛（参議院議員）
	10月 6日	中大路為昭（日本道路公団技術部長）
	11月19日	水町 治（警察庁国際刑事課課長）
1981年	1月15日	福井大学都市調査団 本多義明 他9名
	21日	塩川正十郎（運輸大臣）
	7月 7日	天野貞夫（海外経済協力基金業務第二部長）
	17日	国際交通安全学会調査団 浅井正昭（日本大学教授） 太田勝敏（東京大学助教授） 尾崎健二（国学会）
	8月 6日	式田 孝（JICA副総裁）
	9月12日	国際活動促進議員連盟 三原朝夫（衆議院議員） 片岡精一（ ” ） 谷 洋一（ ” ） 他2名
	14日	JICA広報用写真取材チーム 吉田勝美（写真家） 他1名
	10月22日	小坂 忠（建設省技監）
	12月 5日	W. Gerald Wilson（国際道路連盟総裁）
	7日	1981 Press Inspection Tour of RP-Japan Cooperation Project 12新聞社
1982年	1月13日	柳 健一（外務省経済協力局長）
	24日	加藤千秋（大蔵省主計局経済協力係長）
	4月27日	藤田公郎（外務省経済協力局審議官）
	28日	野村 豊（JICA理事） 大沼孝司（毎日新聞記者）
	29日	松尾 徹（読売新聞記者）
	8月16日	越 正毅（東京大学教授）
	9月 6日	笠井智子（鎌倉市議）
	24日	有馬純達（朝日新聞論説委員）

1982年10月19日	小島直紀（作家）
11月23日	中澤式仁（JICA理事）
12月9日	松村政幸（サンケイ新聞記者）
1983年2月18日	黒川（外務省経済協力第二課長）
3月28日	合馬敬（内閣審議官）

ADMINISTRATIVE STAFF

1. Alvarez, Alan T. - Draftsman
2. Bonganay, Domingo T. - Utilityman
3. Caingat, Gilda S. - Accounting Clerk
4. Castor, Eleuterio L. - Driver
5. Coronado, Thelma G. - Adm. Officer
6. Corpuz, Jose Sr. C. - Prec. Inst. Tech.
7. Dacanay, Ramir R. - Messenger
8. David, Sonia S. - Clerk-typist
9. Esguerra, Leticia Y. - Bookkeeper
10. Esteves, Michaelangelo S. - Draftsman
11. Gabriel, Tanglao D. - Carpenter
12. Gollayan, Ubaldo B. - Clerk-typist
13. Ileteo, Jose Buddy I. - Carpenter
14. Illavera, Margarito I. - Driver
15. Landrito, Elpidio Jr. C. - Key Punch Optr. I
16. Litonjua, Lilia B. - Accounting Clerk
17. Mateo, Teresita C. - Clerk-typist
18. Montellano, Romeo M. - Mul. Machine Optr.
19. Odo, Teodulo G. - Driver
20. Pastrana, Aurora V. - Property Officer
21. Reyes, Alicia F. - Clerk-typist
22. Rima, Fernando Jr. P. - Aux. Console Optr.
23. Sebastian, Teofilo A. - Clerk-typist
24. Vega, Benjamin A. - Driver
25. Velasco, Osmundo D. - Driver

ACADEMIC NON-TEACHING STAFF

1. Apuan, Manuel T. - Senior Training Asst.
2. Dominguez, Josefina M. - Librarian II
3. Festejo, Edwin Bernardo P. - Res. Aide
4. Ganatuin, Anita F. - Research Adie
5. German, Rosie L. - Research Aide
6. Lim, Rey S. - Research Assistant
7. Moralde, Bibiana P. - Research Aide
8. Opinaldo, Crispin B. - Research Assistant

9. Opinaldo, Elsie I. - Training Assistant
10. Salazar, Elizabeth L. - Librarian II
11. Tibayan, Mercedita L. - Research Aide

CONTRACTUAL

1. Barles, Marissa V. - Researcher
2. Corpuz, Rogelio V. - Computer Operator
3. Dayot, Clavel S.P. - Project Analyst
4. Maglaya, Tomas M. - Student Assistant
5. Sunico, Lorenzo - Junior Programmer
6. Trinidad, Oscar - Junior Programmer

ACADEMIC TEACHING STAFF

1. \*Bernal, Ferdinand R. - TS II
2. Cardenas, Jeanne d'Arc C. - TS I
3. Cases, Esteban Jr. Q. - Deputy Director
4. \*Dalu, Cynthia B. - Computer Prog. II
5. De Fiesta, Lilia S. - Transp. Asst.
6. Desamito, Leah I. - Transp. Asst.
7. Felias, Herculano Jr. A. - Computer Programmer I
8. Garcia, Samuel Julius V. - Transp. Asst.
9. Gonzalez, Monaliza - Transp. Assistant
10. Lidasan, Hussein - Transp. Assistant
11. Mortero, Jose F. - TS I
12. Nuñez, Virgilio L. - Transp. Asst.
13. \*Sigua, Ricardo G. - TS I
14. \*Villoria, Olegario Jr. G. - TS II

TS = Transportation Specialist

\* On Study Leave

PART-TIME/DETAILED

1. Arias, Metelo E. - Consultant
2. Dela Paz, Eliseo D. - Consultant
3. Esguerra, George D. - Consultant
4. Mangoba, Melchor R. - Consultant
5. Parane, Rodolfo G. - Consultant

JAPANESE EXPERTS

1. Fujii, Toshio
2. Fuwa, Shin
3. Ishikawa, Tadashi
4. Kikura, Masami
5. Konami, Hirohide
6. Miyoshi, Seiichi
7. Nishida, Yasushi
8. Uetakaya, Koichi
9. Yonekura, Toshiharu

附録 4 定常訓練コース訓練生名簿

TTC REGULAR TRAINING SESSION #1

June 5, 1978 - October 30, 1978

TRAFFIC PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ALCARAZ, Merlinda G.	DPH - PPDO
2. BARIAS, Rolando T.	DPWTC
3. BARRAMEDA, Wilma T.	HSC
4. EVARISTO, Roberto B.	DPWTC
5. FLORES, Cecilia V.	HSC
6. FLORES, Fernando M.	DPH Region III
7. GALVEZ, Ronald F.	DPH Region I
8. GANUELAS? Benjamin R.	DPH Region I
9. GAYONDATO, Theodora T.	HSC
10. GONZALES, Rodolfo B.	PPA
11. HERRERA, Pedro, Jr. S.	DPH Region IX
12. MACALINDOL, Nelia A.	DPH Region IV
13. MADRID, Nathaniel L.	DPH Region X
14. SANTOS, Pacifico S.	HSC
15. SAUL, Ernesto	CHPG

TRAFFIC ENGINEERING

1. CALISON, Hilario R.	WPD
2. DE LA CRUZ, Romulo G.	WPD
3. LAGMAN, Angel L.	DPH Region III
4. MAGPANTAY, Arnulfo M.	DPH - PPDO
5. MANDAC, Elpidio G.	DPH Region II
6. MANES, Evelnie F.	DPH Region IV-B
7. MARQUEZ, Pedro, Jr. C.	CHPG
8. REYES, Roberto T.	HSC
9. SUAN, Laureano, Jr. B.	DPH Region IV-A
10. TAPIA, Germiniano A.	DPH Region I
11. DAYOT, Clavel Suesette B.	DPWTC

TRAFFIC MANAGEMENT

1. BARCELONA, Pedrito J.	CMPB, AFP
2. CABUENAS, Guillermo	CHPG

<u>Name</u>	<u>Office</u>
3. CAMELLO, Alejandro A.	CHPG
4. DE LA ROSA, Angel, Jr.	DPH - PPDO
5. DULAY, Alberto	EPD
6. DUNGO, Ernesto E.	SPD
7. ENRUQUEZ, Abraham C.	NPD
8. FLORES, Rogelio	UP
9. NAÑAS, Antonio	CHPG
10. PANGANIBAN, Rodolfo B.	LTC
11. PASCUAL, Regalado B.	NPD
12. RAMOS, Norberto V.	DPWTC
13. SANTIAGO, Valentine C.	WPD
14. SARMIENTO, Fausto L.	WPD
15. VENTURA, Dominador	CHPG
16. VERIDIANO, Alejandro	SPD
17. VILLAROEL, Lamberto R.	CHPG
18. VILLORIA, Guillermo J.	CHPG

TTC REGULAR TRAINING SESSION #2

January 5, 1979 - June 1, 1979

TRAFFIC PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ABELLANA, Luigi A.	PPA
2. BRUNO, Herly M.	CHPG
3. CADAY, Sixto N.	PPDO/MPH
4. CASTILLO, Virgilio C.	MHS
5. GIONGCO, Leilani J.	MHS
6. LAUREL, Josefino T.	Quir. Const. Cmd. R-2
7. PAJO, Buenaventura C.	MPH, Region VII
8. POLICARPIO, Leonardo T.	WPD, MPF
9. RANCUDO, Benrobio V.	INPTC, RTC 1

TRAFFIC ENGINEERING

1. ASUNCION, Danilo T.	MPH, Region III
2. ATUTUBO, Dexter I.	MPH, Region V
3. BONDOC, Josephine R.	MPWTC

<u>Name</u>	<u>Office</u>
4. DAVID, Samuel F.	MPH, Region IV-A (TEAMP)
5. DULAY, Wilfredo V.	CHPG
6. FETALVERO, Enrico F.	PPDO/MPH
7. GENOTA, Solita V.	PPDO/MPH
8. JOAQUIN, Loreto M.	PPDO/MPH
9. JORDAN, Honore D.	HSRC, MHS
10. LAGUNZAD, Ranulfo V.	MPH, Region XI
11. RODRIGUEZ, Tomas M.	MPH, Region XIII
12. SALMO, Jesus E.	MPH, Region I
13. TIONGSON, Nydia Y.	MPH, Region VII
14. VILLANUEVA, Reynlado R.	CEO, Davao City

TRAFFIC MANAGEMENT

1. ALCANTARA, Florentino H.	WPD, MPF
2. BALARIAS, Rodolfo C.	INPTC, RTC 10
3. CAILAO, Arturo C.	WPD, MPF
4. CASTRO, Teodorico, Jr. T.	CHPG
5. CRUZ, Teodoro S.	INPTC, RTC 3
6. DUNGO, Jesus M.	WPD, MPF
7. FERRAREN, Rocelando B.	INPTC, RTC 8
8. GARCIA, Dominador L.	EPD, MPF
9. GIRON, Yakal M.	INPTC, RTC 4
10. GUEVARRA, Bonifacio G.	WPD, MPF
11. GUPILAN, Domingo I.	LTC
12. HIPOLITO, Benjamin P.	NPD, MPF
13. MADULA, Manuelito S.	CHPD 8
14. MANUBAY, Jesus S.	RECOM XII Davao, Or. C.C.
15. MENDOZA, Alfredo A.	CHPG, CHPD 4
16. NALANGAN, Alfonso G.	CHPG HQ
17. NARCA, Rogelio S.	MMTEAMP
18. OZAETA, Romualdo B.	INPTC, RTC 9
19. SANCHEZ, Remigio V.	SPD, MPF
20. SAN JOSE, Conrado T.	PSI/EPD, MPF
21. SATOL, Iskak M.	CHPG
22. SURALVO, Marciano, Jr. A	SPD, MPF
23. TOMAS, Elizer F.	NPD, MPF
24. VILLAGARCIA, Eriberto C.	PC METROCOM



TRAFFIC PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ALAWI, Elias S.	MPH R-12, Cotabato City
2. BALGUA, Roberto B.	MPH R-II, Tuguegarao, Cagayan
3. CANDELARIA, Romeo R.	MPWTC, Planning Service
4. DE JESUS, Jaime F.	MHS, TRC Bldg., Buendia
5. FERNANDO, Nicasio M.	OCE, Camp E. Aguinaldo
6. LIM, Edgardo K.	MPH R-IV-A, EDSA, Q.C.
7. QLANDIA, Raquel J.	MLGCD, URB, DEV DIV, BCD
8. SOTTO, Annabella A.	HSRC, Goodwill Bldg., Buendia
9. ULEP, Celestino B.	HSRC

TRAFFIC ENGINEERING

1. ALONZO, Geronimo S.	MPH, PPDO, Port Area, Mla
2. AQUINO, Geminiano	MPH, PPDO, Port Area, Mla.
3. ARGOSINO, Virgilio P.	PAF, NAB, Pasay City, M.M.
4. BANTOL, Pelagio C.	MPH, PPDO, Port Area, Mla.
5. CASTILLO, Lucia I.	MPH, R-IV-A, MMTEAM
6. CO, Delfin, Jr. B.	MPWTC, NIA Bldg., EDSA, Q.C.
7. MARCHADESCH, Flaviano, Jr. L.	MPH R-VIII, Leyte
8. PLACER, Noe V.	

TRAFFIC MANAGEMENT

1. ATAL, Meneleo B.	MEC, Banawe, Q.C.
2. CATINDOY, Fortunato A.	Tac. Pol. Sta., Tacloban City
3. CEPEDA, Emmanuel P.	CHPD 4, CHPG, Camp Crame
4. CHUIDIAN, Rolando G.	CHPG, Camp Crame
5. DE JESUS, Enrico B.	MPH, MMTEAM
6. DE LEON, Jose S.	MLGCD, Urb Dev Div, BCD
7. DUMPIT, Wilfredo R.	CHPD 1., Baguio City
8. GOZON, Alfredo B.	Cavite Const. Com., Imus
9. LECTURA, Carlito D.	CHPD 9, Zamboanga City
10. LIBRES, James Douglas T.	CHPG, Butuan City
11. MADRID, Pancho N.	WPD
12. MAGNAYE, Pablito M.	Military Pol Bde., AFP, CA

<u>Name</u>	<u>Office</u>
13. MALAZA, Almino S.	RECOM 7, HQ PC/INP
14. PACIS, Pantaleon, Jr. D.	PC Metrocom, Camp Crame
15. PUA, Dolores G.	MPWTC
16. SALIDO, Danny L.	CHPD 4, CHPG, Camp Crame
17. SAMINIANO, Domingo M.	CHPD 5, Legaspi City
18. SANTOS, Menandro M.	WPD
19. TEOFISTO, Josefino A.	PC METROCOM, Camp Crame

TIC REGULAR TRAINING SESSION #4

January 21, 1980 - June 4, 1980

TRAFFIC PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. BUNOAN, Franklin P.	MPH Region II, Tuguegarao, Cagayan
2. FALCON, Rommel R.	MPH R-IV-A
3. MABLE, Elena A.	Dev. & Tech. Consultants, Inc. T.M. Kalaw cor. A Mabini St., Ermita, Mla
4. MACUHA, Eugenio, Jr. S.	PPA, Aduana, Intram., Mla.
5. MARTINEZ, Mildred A.	Off. of the City Engineer, Davao City
6. MAURICIO, Manuel J.	F.F. Cruz & Co., Inc., 800 EDSA, Q.C.
7. MOSTER, Laila G.	MPH R-IV-A (MMTEAMP)
8. SALLE, Generoso B.	PPA, Aduana, Intram., Mla.
9. SARGAN, Ramon L.	NGA

TRAFFIC ENGINEERING

1. AREGLO, Jaime A.	PPDO, MPH, Port Area, Manila
2. BASADA, Faustino, Jr. J.	MPH Region IV-A (MMTEAMP)
3. CAYA, Nazario, Jr. C.	MPH Region VIII, Pawing, Palo, Leyte
4. LAGMAY, Florante D.	Const. & Dev. Corp of the Phil. 355 Buendia Ave., Makati, MM
5. MAGTIBAY, Iluminada M.	MPH R-IV-A, EDSA, Q.C.
6. MOSCOSO, Claro Cesario T.	MPH Region VI, Fort San Pedro, Iloilo
7. NARVAEZ, Ruperta E.	Techniks Group Corporation, 3rd Floor P & L Bldg., 116 Legaspi St., Makati
8. OPINALDO, Crispin B.	TTC, U.P.

<u>Name</u>	<u>Office</u>
9. PAJARILLO, Ruben J.	Trans-Asia
10. TUPAS, Jereon R.	MPH Region XII, Cotabato City

TRAFFIC MANAGEMENT

1. ADOR DIONISIO, Eduardo B.	HOS PC TRACOM, Silang, Cavite
2. ANDRES, Antonio A.	Recom 1
3. BALANE, Jose V.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
4. BEREDO, Ambrocio A.	HQS PC TRAINING COMMAND, Silang Cavite
5. CAACBAY, Rodolfo la Torre	CHPG
6. DIZON, Marino F.	NPD/MPF Station IV, Navotas, MM
7. ESCOLIN, Roque Y.	WPD, MPF, Atlanta, Port Area, Mla.
8. MAUNAHAN, Agaton V.	CHPD 3, Camp Olivas, San Fernando, Pampanga
9. MENDIOLA, Domingo C.	EPD/MPF, Pasig Pol. Station, Pasig, MM
10. MOJICA, Dionisio B.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
11. OMAR, Acmad D.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
12. PARANE, Rodolfo G.	CHPD 4, CHPG, Camp Crame
13. REYES, Mario M.	WPD, Traf. Div., Atlanta St., Mla.
14. SANTOS, Joseph G.	WPD, Atlanta St., Port Area, Mla.
15. UNDUG, Ibnohasim A.	CHPD 4-A, Camp Vicente Lim, Laguna

TTC REGULAR TRAINING SESSION #5

July 21, 1980 - November 12, 1980

TRAFFIC PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ALFARO, Florentino, Jr. S.	MPH R-IX, Tuitiaga, Zamboanga City
2. BUSTILLO, Dannie M.	MPH R-VI, Iloilo City
3. RICO, Salvadora R.	CDCP, 3rd Floor, JB Bldg. Buendia Ave. Ext., Makati
4. RIGOR, Froilan T.	OCE, Davao City
5. SAYO, Zoilo M.	MPH-MMTEAMP, TCC R.M. Blvd. Sta, Mesa
6. SORO, Rafael, Jr. P.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati
7. VILLEGAS, Godofredo N.	COA, Don M. Marcos Ave., Q.C.

TRAFFIC ENGINEERING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. CABAL, Bernardita A.	MPH-PPDO, 2nd St., Port Area, Manila
2. EDROTE, Sindolfo, Jr. A.	OCE, Cagayan de Oro City
3. MALONGO, Nicholas B.	MPH R-XII, Cotabato City
4. MAMAC, Buenaventura	MPH R-XI, Davao City
5. MEDIRAN, Noel V.	MPH Preconstruction Division 2nd St., Port Area, Manila
6. NILLES, Eufemio E.	F.F. Cruz & Co., Inc., 800 EDSA, Q.C.

TRAFFIC MANAGEMENT

1. ACOSTA, Rufino G.	Off. of METROCOM ADJ, PCM, Camp Crame
2. APACIBLE, Medardo B.	Off. of the Minister of Nat'l Defense Camp Aguinaldo, Q.C.
3. BARCALA, Felix M.	PPA, Port of Mla, PNR Bldg., South Har
4. DE LA PAZ, Eliseo D.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
5. GARCIA, Nazario M.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
6. GASPAR, Mario B.	EPD Police Stn II, Pasig, MM
7. GLORIA, Rafael A.	NPD Stn 3, Malabon, MM
8. GROSPE, Perfecto A.	EPD-MPF, Marikina Police Stn.
9. LACANLALE, Dominador L.	NPD Police Stn III, Malabon, MM
10. MANECLANG, Cesar, Jr. G.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
11. MIRANDA, Manolito O.	SPD-3, Parañaque, Metro Manila
12. MORENO, Paquito D.	MPH R-II, Tuguegarao, Cagayan
13. RONQUILLO, Cenon H.	WPD Traffic Division
14. ROPA, Arnel B.	MPH-MMTEAMP TCC Bldg, R.M. Blvd., Sta. MESA
15. RUIZ, Candido D.	SPD Hqs., TSD
16. SERRANO, Alfredo Q.	PC Training Command, Silang, Cavite
17. YU, Benjamin T.	CHPD 11, Davao City

TRANSPORTATION PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ACELAR, Florentino, Jr. P.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext. Makati
2. BEJA, Dario S.	Cagayan de Oro City, City Mayor's Office
3. CAFE, Prudencio L.	MPH R-XI, Davao City
4. CASIDA, Menelia R.	BLT, East Ave., Quezon City
5. DE LEON, Flordeliza T.	MLGCD-RSC/CDAP, Merryland Bldg., E. Rodriguez
6. DUYUNGAN, Roy Vicente E.	BLT, East Ave., Quezon City
7. SINGCO, Ruby U.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati
8. VALINO, Encarnacion D.	COA, Don M. Marcos Ave., Q.C.

TRAFFIC ENGINEERING

1. CADETE, Melchor C.	MPH R-VI, Iloilo City
2. DE JESUS, Conrado, Jr. C.	COA, Don M. Marcos Ave., Q.C.
3. JARANILLA, Manuel G.	MPH R-VI, Iloilo City
4. LAGUNZAD, Luz V.	MPH, PPDO, Port Area, Manila
5. OCAMPO, Pedro, Jr. R.	MPH, MMTEAMP, R.M. Blvd., Sta. Mesa
6. OLORES, Winifredo B.	MPH, Bu. of Construction, Port Area, Mla.
7. PAGDANGANAN, Reynaldo A.	MPH, PPDO, Port Area, Manila
8. POLICARPIO, Chuchi	CEO, Davao City
9. RODRIGUEZ, Reynold F.	MPH-R-II, Tuguegarao, Cagayan
10. SOLAJES, Olivia M.	COA, Don M. Marcos Ave., Q.C.
11. SORO, Rafael, Jr. P.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati

TRAFFIC MANAGEMENT

1. ABDUSALAM, Yahha U.	PPA
2. ALCANSE, Cornelio C.	CHPD-6, Camp Delgado, Iloilo City
3. BANNAS, Mariano B.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
4. CABATO, Danilo T.	C3 Div., HPC, Camp Crame, Q.C.
5. CRUZ, Virgilio S.	Off of the Deputy Chief of Staff for Intell., J2, CGEA, AFP

<u>Name</u>	<u>Office</u>
6. DANTES, Edgar Z.	COSAC BN, Taguig, MM
7. DURLAO, Golondrina Z.	SPD, Ft. Bonifacio, MM
8. FRANCA, Martin M.	SPD Station #2
9. GARLITOS, Danilo M.	NPD, Q.C. Police Sub-Stn 2
10. MANLONGAT, Reynaldo A.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
11. MASILANG, Ceferino V.	CHPG 4, Camp Vicente Lim, Laguna
12. MIRANDA, Nemesio L.	BLT
13. MORTEL, Jose M.	BLT
14. PACLIBAR, Benjamin P.	MND, Camp E. Aguinaldo, Q.C.
15. PAGALA, William C.	MMTEAM, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
16. SAN BUENAVENTURA, Rafael N.	EPD, MPF, Meralco Ave., Pasig. MM
17. SANTIAGO, Pablo P.	PCM, North Sector, Sikatuna V., Q.C.
18. SERRANO, Isabelo P.	MMC-TOC, Diliman, Quezon City
19. SIAGAN, Constante A.	PCM Eastern Sector Command, Taytay, Rizal
20. TEOFISTO, Napoleon A.	CHPG, Camp Crame, Q.C.

TTC REGULAR TRAINING SESSION #7

August 17, 1981 - November 27, 1981

TRANSPORTATION PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. BAGSIC, Rory C.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati
2. BARRO, Daylinda A.	BLT, East Ave., Q.C.
3. DOMINGUEZ, Adolfo R.	PPA, BF Cond. Bldg., Aduana, Intram., MM
4. OSEÑA, Francisco T.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati
5. PANGILINAN, Veneracion G.	MPH-MMTEAMP, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
6. SANTILLAN, Christian V.	PPA, BF Cond. Bldg., Auana, Intram. MM
7. SILVA, Saturnino P.	MOTC - BOT Davao
8. TABAJONDA, Bayani B.	MOTC, Philcomcen Bldg., Ortigas Ave., Pasig
9. TABLANTE, Evangeline V.	MMC - TOC, Quezon City

## TRAFFIC ENGINEERING

<u>Item</u>	<u>Office</u>
1. BAYAN, Rizal R.	MPH - MMTEAMP, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
2. BONUS, Eloy M.	MPH R-III, San Fernando, Pampanga
3. DAVID, Ella S.	MPH-MMTEAMP, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
4. GONZALES, Glenn G.	MPH-MMTEAMP, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
5. LEYESA, Carolyn A.	MPH-MMTEAMP, TCC Bldg., R.M. Blvd., Sta. Mesa
6. MARTINEZ, Fidela A.	OCE, Cebu City
7. MASCARDO, Grace L.	MPH R-VII, Cebu City
8. PEROY, Danilo M.	MPH R-VI, Iloilo City
9. REYES, Jerome F.	MPH R-IV-A, EDSA, Quezon City

## TRAFFIC MANAGEMENT

1. ADANGLAO, Emiliano U.	PC Recom 1, Cmp Bado Dangwa, La Trin, Beng.
2. AGTARAP, Elpidio G.	PC Recom 1, Cmp Bado Dangwa, La Trin, Beng.
3. ALVAREZ, Felipe D.	CHPD 3, Camp Olivas, San Fernando, Pamp.
4. BULACLAC, Ludovico, Jr. J.	MPH R-XI, Davao City
5. CAISIP, Rodolfo N.	CHPG, Camp Crame, Quezon City
6. CARPIO, Marcelino C.	NPD-MPF Cal. City Pol Stn, Samson Road
7. CASUMPANG, Ignacio P.	CHPD 6, Iloilo City
8. ENDAYA, Nenita V.	MMC-TOC, Quezon City Hall
9. FIDEL, Aaron D.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
10. JIMENEZ, Amado T.	NPD-MPF, Stn 2, Caloocan City
11. LOMAT, Estela M.	SPD-MPF, Makati Police Stn., Zobel St.
12. MANUEL, Edgar G.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
13. MEDINA, Leonardo S.	SPD-MPF, Makati Pol. Stn. 2
14. MENA, Henandro G.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
15. PESIGAN, Angelica R.	NPD-MPF, Traffic Division, Q.C. Pol. Stn.
16. RIVERO, Wilhelmina C.	MMC-TOC, QUEZON City Hall
17. SEPIDA, Benjamin B.	EPD-MPF, Meralco Ave., Pasig, MM
18. SORO, Rafael, Jr. P.	MHS, TRC Bldg., Buendia Ave. Ext., Makati
19. TULOD, Felicito O.	NPD-MPF, TOC, Sikatuna Village, Q.C.

TTC REGULAR TRAINING SESSION #8

TRANSPORTATION PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. BAQUIRAN, R Rex B.	CHPD-10, Cagayan de Oro City
2. DE CASTRO, Valeriano F.	MMC (OCP)
3. ILACAD, Salud S.P.	MOTC, Philcomcen Bldg., Ortigas Ave.
4. NAGUI, Manuel C.	MMC (OCP)
5. PAGUINTO, Rolando C.	MMC, Office of the Governor (EOC)
6. PATAG, Claro S.	MMC (OCP)
7. REGINO, Adelita M.	BLT R-V, Legaspi City
8. SEPULVEDA, Victor A.	BOT R-VII, Cebu City
9. SIAGAN, Constante A.	CHPG, Camp Crame, Quezon City
10. TEJANO, Juanito C.	BLT NCR, Pasig, Metro Manila

TRAFFIC ENGINEERING

1. MANCENIDO, Danto O.	MMC, Office of the Governor (EOC)
2. MENDOZA, Benito S.	MMC, Office of the Governor (EOC)
3. MIRAPLES, Jose, Jr.	MPWH (TEAM) TCC, R.M. Blvd., Sta. Mesa
4. RAMOS, Alfresco F.	MPWH (TEAM) TCC, R.M. Blvd., Sta. Mesa

TRAFFIC MANAGEMENT

1. BANAN, Doming A.	NPD-MPF (Sta. IV, Navotas)
2. BASCO, Celestino G.	BLT R-VII, Cebu City
3. CALPE, Armando R.	EPD-MPF, Pasig, Metro Manila
4. CELIS, Casiano T.	WPD-MPF (T.D., Atlanta, Port Area)
5. DE LA CRUZ, Margarita D.	NPD-MPF (Traffic Div., Q.C. Pol Stn)
6. DONATO, Joel A.	BLT R-I, San Fernando, La Union
7. IBASAN, Alfredo C.	CHPD-5, Legaspi City
8. JAUCIAN, Rodolfo B.	BLT R-V, Legaspi City
9. MACARANAS, Antonio D.	PG-C3, Cp Crame, Q.C.
10. MACCAY, Oscar A.	SPD-MPF (Makati Pol Stn)
11. MAGPANTAY, Manolo O.	BLT R-IV, Lipa City
12. MALLETE, Roberto R.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
13. OALIN, Pedro M.	PC Bde, 61st PC Bat. Camp Catitipan, Davao City
14. PASION, Leonardo Y.	CHPG, Camp Crame, Q.C.



<u>Name</u>	<u>Office</u>
15. PAYUAN, Fermin M.	WPD-MPF, (TD., Atlanta, Port Area)
16. REYES, Norberto C.	MMC, Office of the Governor (TOC)
17. SADANG, Romeo M.	CHPG, CP Camp Crame, Q.C.
18. SANTOS, Jose S.	WPD-MPF (TD., Atlanta, Port Area)
19. VASQUEZ, Jovencio B.	WPD-MPF (TD., Atlanta, Port Area)
20. VERGARA, Pedro R.	CHPG, CP Camp Crame, Q.C.

TTC REGULAR TRAINING SESSION #9

July 26, 1982 - November 5, 1982

TRANSPORTATION PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. AWITEN, Dominador C.	BLT R-X, Cagayan de Oro City
2. BALANE, Jose V.	CHPG. Camp Crame, Q.C.
3. BALDON, Manuelita R.	MPWH (Planning Service) Bonifacio Drive, Port Area, Manila
4. CASTILLO, Carlomagno, Jr. T.	MLG (Rural Service Center/CDAP) 1373 E. Rodriguez Ave., Q.C.
5. DIEGO, Lilia Q.	BLT, East Avenue, Q.C.
6. IBARRA, Arnold O.	MHS (Corporate Management Service) Agustin I Bldg., Emerald Ave., Pasig
7. IGNACIO, Maria Teresa R.	MMC (TOC), Q.C. Hall Compound
8. JULAILA, Rodel N.	MPWH (NRR,BOC) BD, Port Area, Manila
9. LIM, Evangeline M.	MHS (Computer Graphics Div., Corporate Management, Urban II Bldg. Buendia Ave. Ext.)
10. MIGUEL, William E.	MMC (TOC, Q.C. Hall Compound, Diliman, Quezon City)
11. PIPO, Eugenio, Jr. R.	MPWH (NRR, BOC) Bonifacio Driver, Port Area, Manila
12. VELUZ, Merceditas P.	ALMEC Corporation, 500 P. Burgos, Bel Air, Makati

TRAFFIC ENGINEERING

1. BAER, Nestor V.	MPWH (TCC-TEAMP), R.M. Blvd., Sta. Mesa
--------------------	-----------------------------------------

<u>Name</u>	<u>Office</u>
2. BALAJADIA, Carina P.	MPWH (Highway Design Deiv., Bureau of Design) BD, PA, Manila
3. CORTEZ, Felino G.	MPWH (NCR), 2nd St., Port Area
4. PALCONE, Amor T.	MPWH (Planning Div.) Bonifacio Drive, Port Area, Manila
5. PANGILINAN, Josefino R.	MPWH (Bridges Div., BOC), BD Port Area, Manila
6. PARAGAS, Gloria D.	MPWH (Barangay Div., BOC) Bonifacio Drive, Port Area, Manila
7. PAULINO, Renato E.	MMC (TOC), Q.C. Hall Compound
8. PLAZA, Guia N.	MCLUTS, 3rd Flr., HGV Arcade, Subangdaku, Mandaue City
9. RIPALDA, Felix T.	CEO, Tacloban City
10. RONQUILLO, Alexander M.	MPWH (TCC-TEAMP), R.M. Blvd., Sta. Mesa
11. VALERIO, Harry N.	MPWH (Maintenance Div. NCR), 2nd St., Port Area, Manila

TTC REGULAR TRAINING SESSION #9

TRAFFIC MANAGEMENT

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ALABO, Jovelino, Jr. P.	NPD-MPF (Valenzuela Pol. Stn.)
2. AOANAN, Alberto E.	CHPD-1, Baguio City
3. ARADA, Francisco M.	C3 Div. HPG, Camp Crame, Q.C.
4. AYAT, Antonio P.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
5. BAGO, Antonio M.	HQS Iloilo Constabulary Command, Camp Delgado, Iloilo City
6. BUTRA, Elvie A.	Cagayan de Oro Police Station, Cagayan de Oro City
7. CABANAG, Ely C.	BLT R-VII, Bais City, Negros Oriental
8. DAVID, Geronimo, Jr. G.	NPD-MPF (Stn.3, Malabon)
9. DELFIN, Severino L.	WPD-MPF (Traffic Division), Atlanta, P.A., Manila
10. ESPANOL, Nestor H.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
11. JAMES, Henry O.	CHPD-1, Baguio City
12. MAGALONA, Felix M.	BLT R-XI, Davao City

<u>Name</u>	<u>Office</u>
13. MENDOZA, Vicente S.	MWSS (Contract Adm. Dept.) Katipunan, Balara, Q.C.)
14. MIRALLES, Romeo M.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
15. MUGOT, Celrino U.	BLT- R-X, Cagayan de Oro City
16. PAGAYONAN, Ariston, Jr. B.	CHPD-9, Zamboanga City
17. QUIACOS, Primo C.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
18. ROXAS, Efren B.	NPD-MPF (QCPS, EDSA, Q.C.)
19. VALLEJO, Manuel L.	PPA (Opns & Trng, Security & Intell. Staff), Aduana, Intramuros, Manila
20. VARGAS, Rivardo E.	CHPG, Camp Crame, Q.C.
21. VILLADORES, Cesar A.	NPD-MPF (QCPS), EDSA, Quezon City

TTC REGULAR TRAINING SESSION #10

February 14, 1983 - May 27, 1983

TRANSPORTATION PLANNING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ABUTAZIL, Kalon	BLT Region 9, Zamboanga City
2. CABUENAS, Guillermo B.	CHPG, Camp Crame, Quezon City
3. DE LA PEÑA, Lory C.	MLG, E. Rodriguez St. Blvd., Q.C.
4. ELMIDO, Dennis U.	MPWH, Port Area, Manila
5. FAMADICO, Napoleon S.	MPWH, Port Area, Manila
6. GARCIA, Patrocinio M.	BOT, Pasig, Metro Manila
7. GAVIOLA, Edita L.	MMTC, North Ave., Diliman, Q.C.
8. MEDINA, Fructuoso, Jr. C.	BOT Region IV & V, Lucena City
9. OLAVARIO, Don O.	BOT, Shaw Blvd., Pasig, Metro Manila
10. PARALISAN, Emmanuel N.	BOT, Piatos Bldg., Pichon St., Davo City
11. QUICHO, Caesar R.	Rural Service Center Proj/MLG E. Rodriguez Ave., Quezon City
12. SANTOS, Severino C.	Regional Development Staff, NEDA
13. TORREFIEL, Benjamin C.	RSC/CDAP-MIG, E. Rodriguez Ave., Q.C.
14. VALENZUELA, Orlando B.	BLT, East Avenue, Quezon City
15. VERANO, Efrain S.	BLT, East Avenue, Quezon City
16. VILLADORES, Cesar A.	Traffic Division, QCPS

TRAFFIC ENGINEERING

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ALCARAZ, Milagros T.	MPWH-TOC, Sta. Mesa, Manila
2. BADILLO, Paulino B.	URPO-MPWH, 2nd St., Port Area, Manila
3. CALAYAN, Graciano, Jr. B.	PG-6 Field Office, MWSS/CDM, Pasig, MM
4. DE VERA, Ricardo C.	Maintenance Div., MPWH-NCR, Port Area, Mla.
5. DIMAYUGA, Sabino H.	MPWH-TOC, R.M. Blvd., Sta. Mesa, Manila
6. GARBIEL, Celerino R.	URPO-MPWH, 2nd St., Port Area, Manila
7. GALEOS, Florian F.	MCLUTS, Subangdaku, Mandaue City
8. GUIRINDOLA, Elvira G.	Angel Lazaro & Associates, EDSA, Q.C.
9. LAGUNDA, Allyson P.	URPO-MPWH, 2nd St., Port area, Manila
10. MANAYSAY, Milagros C.	MPWH, Planning Service, Port Area, Manila
11. PARAGAS, Agustin G.	Techniks Group Corp., Legaspi Village, Makati
12. PEÑA, Joel Z.	MPWH-TCC, R.M. Blvd., Sta. Mesa, Manila
13. PENSON, Angelo Dwight L.	Centerline Construction, Kabignayan St., Q.C.
14. ROSARIO, Reynaldo V.	MPWH-NCR, Planning Div., Port Area, Manila
15. SOLDEVILLA, Eleanor P.	RCDP, Iloilo City
16. SUVA, Marciano b.	MPWH-TCC, R.M. Blvd., Sta. Mesa, Manila

TTC REGULAR TRAINING SESSION #10

TRAFFIC MANAGEMENT

<u>Name</u>	<u>Office</u>
1. ANTONE, Bienvenido A.	MWSS, Diliman, Quezon City
2. BRAVO, Edwin S.	RCDP, Iloilo City
3. BRIONES, Pacifico, Jr. C.	CHPG, Camp Crame, Quezon City
4. DALODO, Jose PL	Davao Metropolitan District Command
5. GENATA, Lydia M.	MPWH-NCR, Port Area, Manila
6. HUERTO, Roseo A.	MMC-TOC, Diliman, Quezon City
7. LEONOR, Fernando, Jr. G.	MMC-TOC, Diliman, Quezon City
8. LIWANAG, Jaime M.	HQ 60th PC BN, Talisay, Camarines Norte
9. MATEO, Augusto C.	NPD-MPF, Stn. IV-Navotas, Metro Manila
10. PEÑA, Romeo L.	SPD-MPF, makati Police Stn
11. RAMOS, Freddie L.	MMC-TOC, Pre-Fab Complex, Quezon City

<u>Name</u>	<u>Office</u>
12. SY, Alfredo M.	PC-METROCOM, Sikatuna Village, Q.C.
13. TEMPLO, Mary Ann L.	MPWH- Bonifacio Dr., Port Area, Manila
14. TIBAYAN, Celedonio T.	CHPG, Camo Crame, Quezon City
15. VALENCIA, Dolores P.	MPWH-TCC, R.M. Blvd., Sta. Mesa, Manila

付録 5 (新聞によるTTC活動の紹介)

TTC活動(通常訓練、地方セミナー、短期セミナー、第三国研修等)は、もっぱら交通に係した人々を対象としたものであるが、マスコミがTTC活動を取り上げ広く社会に知らせたケースも少なくない。以下に、過去5年間にTTC活動がどれだけ新聞記事となったかをまとめてみた。

1978年 9月 3日	Daily Express	マルコス大統領TTCの意義を強調
17日	"	"
1979年 1月11日	Philippine Collegian	TTCの設置した交通信号用ケーブルの盗難事件
5月25日	Bulletin Today	TTCのトレーニングについて
8月 4日	Daily Express	TTC訓練生の役員紹介
10月12日	Bulletin Today	交通問題を解決する一機関として紹介
1980年11月 2日	Bulletin Today	TCC信号システムに関連してTTCを紹介
11月11日	"	TTCの延長問題について
16日	"	"
12月 8日	Business Day	TCC信号システムに関連してTTCを紹介
9日	Bulletin Today	LRT建設工事にともなう交通処理問題にTTCが着手
1981年10月30日	"	小林 実専門家のまとめた歩行者事故に関する報告書について
12月15日	Daily Express	TTCの活動紹介
16日	Bulletin Today	"
24日	"	"
1982年 1月20日	Philippine Collegian	UP構内の交通処理にTTCも参加
2月 5日	Time Jourval	交通調査に対するTTCの役割
3月 7日	"	第三国研修について
8日	Bulletin Today	"
8日	Business Day	"
9日	Bulletin Today	"
17日	The Freeman(セブ市)	第三国研修参加者のセブ旅行について
18日	Visaya Observer(セブ市)	"

1982年	3月19日	The Freeman (セブ市)	第三国研修参加者のセブ旅行について
	7月10日	Bulletin Today	センフェルナンドにおける地方セミナーについて
	14日	"	TTC主催のBOT職員を対象としたセミナーについて
	24日	"	メトロ・マニラ副市長マタイ氏がTTCの第9期訓練開講式で講演
	9月6日	Philippine Collegian	TTC訓練生の役員紹介
	10月5日	Bulletin Today	TTC主催交通安全教育セミナーについて

この他に、フィリピン大学の構内新聞にもしばしば取り上げられている。

(略語については、以下に説明する)

TTC	Transport Training Center	道路交通訓練センター
TCC	Traffic Control Center	交通管制センター
		○メトロ・マニラの信号を制
		○TEAMプロジェクトの実施機関
		TEAM Traffic Engineering And Management
LRT	Light Rail Transit	軽軌道
		○現在、建設中の鉄道システム
UP	University of the Philippines	フィリピン大学
		○国立大学、ケソン以外にも分枝を持つ
BOT	Board of Transportation	運輸審議会
		○公共輸送機関(バス、ジプニー)の路線を認可する

附録 6 プロジェクト終了パーティーのスピーチ

1) TTC セレリオ所長のスピーチ

Minister Dans . . . . . Ladies and Gentlemen.

This is indeed an occasion for Thanksgiving, which we call pasasalamat

. . . . .

Six years ago, the Government of the Philippines and the Government of Japan embarked in an undertaking whose future, while full of hope, was then unknown. That undertaking was a technical cooperation for the establishment of a Transport Training Center. It was like sailing into a big ocean in a small frail boat with only a handful of young inexperienced crew whose only qualification was a big brave heart.

Today we are nearly at the end of that voyage. Our ship has weathered the worst of storms and our crew has been wisened by experience. We see the beautiful Promise Land we are destined to land. Just like Columbus after discovering the New World we give thanks to the Lord for a safe journey. We celebrate or we pay tribute to our patron, especially to JICA for their faith in TTC, for the Cooperation that they have given and will be giving us again, we hope.

For TTC is the product of hard work, of art, vision, cooperation and friendship between the two countries. It has been fashioned from a mixture of materials made in Japan and made in the Philippines. It has been put together by Filipino and Japanese experts, working hand in hand, putting the pieces together to produce a strong, sturdy institution now known over the world as the TTC.

In 10 sessions within six years, TTC has produced 391 regular graduates. Under the newly instituted Third Country Training Program, 43 participants from five Asian countries were trained. In 11 regional cities all over the country, TTC has spread the technology of transportation to some 600 participants. We have also trained some 136 senior transport officials in various short-term courses.

Our Staff has not lagged behind the rapid growth in transport technology. A total of 14 young Staff who are with TTC today have had their training in Japan. Three of our Senior Staff had, during the past six months, obtained masteral degrees from universities in the United States and in Canada while three others are still finishing their masteral programs, we hope within this



year, in universities located in three separate continents of the world.

There had been some 25 long-term experts and several short-term experts assigned to TTC since 1978 headed by four different Chief Advisers, all of whom had been invited to this historic occasion. For those who came we welcome you again. Please feel free to visit the institution that you have helped so much to build. We will always welcome you.

May I conclude my remarks by informing you that I have received a letter from Dr. Akira Ishido, the first TTC Chief Adviser who is now a professor of transportation at the Asian Institute of Technology, the most poignant part of which is:

"The end of the six-year Cooperation to the TTC reminds me of the various joys and sorrows of my days in the Philippines. Thank you very much for your invitation to the party and making effort to reach the end of the Cooperation with splendid accomplishments. Please give my respects to your Advisory Committee, members of your Staff and other guests."

Thank you.

2) 木倉リーダーのスピーチ

Good evening Hon. Minister Dans of MOTC, . . . . Ladies and Gentlemen.

On this brilliant and splendid occasion, it is indeed a great honor and pleasure for me this evening to have been given a chance to extend a response, on behalf of our nine Japanese experts.

First of all we have to express our sincere gratitude for everybody attending here for the successful termination of the Phase I program of this Project and also for being awarded such splendid beautiful plaques to us.

We, of course, feel very happy now, very honored and very proud for that and have to express many thanks to whom all concerned to this project, especially to Honorable Minister Dans, Hon. President Angara, Vice-President Simpas, the Members of the Advisory Committee and Director Selirio. Also we are very honored and proud to be awarded the Plaques in the presence of His Excellency Ambassador Okawa and other staff from the Japanese Embassy and JICA Office.

Our 9 JICA experts, one is already missing, have stayed in this country for 3 years as longest one (That is Mr. Fuwa who already has left for Japan last month) and for 10 months as shortest one (That is me) and majority of us

will be leaving next week, although 3 of us will remain.

And looking back over those past days in Philippines, everybody's feeling would be like this: How the time went by so quickly, recollecting so many happy remembrance and probably so many hard works too. For these days we talked, chattered together, argued, laughed, discussed with each other, studied very hard, sang a song, played some sports and even shared lunch together. All these I now recall to my mind as a sweet and juicy remembrance.

For these 6 years, 25 JICA Experts have contributed to this cooperative program as they appear on the backside of this program becoming their average stay in here for about 2 years, and because of their devotion and, of course, because of the hard and eager efforts of Philippine Side, especially those instructors and also other supporting staff under the supervision of the Advisory Committee and TTC Director, TTC has grown up from an infant to an adult so quickly.

As a result, TTC has become or reached to this extent now not only to be able to deal with or solve almost all transportation and traffic problems occurring in this country without any assistance from outside, but also to be able to conduct the Third Country Training Programme extending its contribution in Traffic and Transportation Technology to other developing countries.

However, transportation problems is a very complicated and difficult one. There are still so many problems to be solved. So, if you encounter some difficulties, please feel free to consult us. Our JICA past and present experts are all very willing to help you, as far as we can, even if after we come back to Japan, as we are already members of TTC's family.

Through the mutual association in the class and field studies, through the mutual association even in daily life, through the mutual exchange of the knowledge in TTC, all of our JICA past present experts have striven not only for performing good technological transfer, but also for having closer and friendlier relations with you.

Thus, our past and present JICA experts have gained many valuable and encouraging true Philippine friends, and this can be said to you also. Probably so many Filipino had very nice and reliable Japanese friends too, and this fact, indeed, would be one of the most fruitful or meaningful result in our cooperative programme, as it probably will lead deeper and better mutual understanding between you and us, between Philippine and Japanese side.

Japan and the Philippines, as important neighbors and partners in Asia, have enjoyed a most close and cooperative relationship for these years. And

this relationship would become more firm, more solid and more stable through this kind of cooperative programs.

Today, one evening in this significant year of UP Diamond Jubilee we are very happy and full of excitement for having an opportunity to be celebrated and awarded such honored beautiful Plaques. We are supposed to feel happy and honored on a day such as this, and we are supposed to be full of enthusiasm for the future of you and us, for the future of TTC also.

Majority of our JICA experts are leaving next week. So, there is a little feeling of sadness among us this evening, as we realize that this is the last time that we will all be together as members of the TTC.

However, the thing we feel, I guess is gratitude. We have some idea of the sacrifices you, our fellows, TTC's supporting staffs, have made for us. We have some idea of all the efforts, supports and assistances that you, Hon. Minister Dans, President Angara, Vice Pres. Simpas, members of the Advisory Committee, Director Selirio, TTC Staff and all those concerned with this Project have made on our behalf. No words can express how thankful we are to you on this day.

We will always remember this day, this very honored and brilliant occasion, and, of course, we will always remember all of you. And finally I would like to say that whatever you do in the future, good luck and success to all of you.

And also good luck and success to TTC. I dare say "TTC is forever!"

Thank you very much for everything from the bottom of my heart.

3) JICA マニラ事務所三浦所長のスピーチ

His Excellency, Minister Jose P. Dans . . . . .

Distinguished Guests, Ladies and Gentlemen

It is indeed a pleasure and honor for me to be able to attend this significant ceremony of the TTC Project.

On behalf of Japan International Cooperation Agency, I am very pleased and grateful to accept the valuable awarding of Plaque of Appreciation for the technical cooperation of the TTC.

I would like to emphasize that the Japanese technical cooperation through JICA is not an aid. Its main objective, in all intent and purpose, is

literally "cooperation" through the co-study, co-survey and exchange of technology transfer and the strengthening of mutual understanding between the people of our two countries.

As most of you are probably aware by now, JICA's technical cooperation needs the so-called counterpart effort of the partner agency in the implementation of its activities.

And TTC is a very good example of the excellent effort for Japanese technical cooperation among our many projects. And I think that there are still many examples of it. But allow me not to do mention it on this occasion, for it will take so much of our time.

As a result of the numerous efforts of the people concerned with TTC, it has grown into a fine and attractive young lady in the world of transportation, as I mentioned before. And I have strong conviction that she will later on turn into a more beautiful lady and continue to contribute in the field of transportation development not only in the Philippines but also in the other countries of the world.

In closing, I would like to express again our appreciation for the effort of TTC Director, Mr. Selirio and all the staff, and of course, the good support of the members of the Advisory Committee headed by Your Excellency Minister Dans, who all played a vital role in attaining the Project's complete success.

Finally, let me say a few words in Tagalog. Ako ay taos pusong nagpapasalamat as paguukol ninyo ng parangal sa araw na ito. Maraming salamat sa inyong lahat.

(I am heartily grateful for the tribute you tendered us on this day. Thank you very much).

#### 4) 中野元建設省参事官のスピーチ

His Excellency Minister Dans . . . . Friends

I'm very, very happy tonight because I can find that TTC had become a greater unit in UP than I expected.

It was on February 1976 when I visited the Philippines for the first time as the head of the Preliminary Survey Mission for TTC Project dispatched by Japan International Cooperation Agency. Through many honest discussions, we finalize the plan of TTC. After 1 year of preparation, TTC Project was started on April 1977. So it seems for me that TTC is one of my lovely sons and I'm

very happy to find the brilliant performance of TTC, so far.

The other reason is that I can share this splendid time with my many friends who worked with us for this project. Here I'd like to appreciate and respect highly the members of the Steering Committee, directors and all staff of TTC and other many people concerned for their great efforts and contribution for the establishment and operation of TTC.

Now the Technical Cooperation Project for TTC between the Philippines and Japan will soon terminate. But I don't feel any air of lonesomeness because I believe the further development of TTC in the future.

Lately I hope that all the graduates of TTC keep close connections with the TTC and make a great contribution toward the betterment and development of Philippine society through transportation.

I wish to conclude my Speech with a prayer for the continued happiness of all who are present here this evening.

Maraming, Maraming Salamat Po.

5) 大川駐比大使のスピーチ

The Honorable Minister of Transportation and Communications Jose P. Dans, Jr. . . . . Ladies and Gentlemen

It is for me an honor and a privilege to be invited here this evening as guest speaker because this is the first time that I have visited the Transport Training Center since, as Mr. Kikura had just told you, I have only been here since the end of January, that's two months and a half. However, I already feel quite familiar with this Center because I have heard so many times that it is one of the best projects under the JICA Technical Cooperation Program in this country and I agree totally with Minister Dans in what he said in that respect.

Traffic problems like congestion, accidents, environmental pollution are among the most serious matters all areas of the world are facing today. During my previous stay in the Philippines, from 1969 to '71, that is some 12 to 14 years ago, there were certainly not as many vehicles on the road as today. Since then the number of cars and buses seems to have increased drastically, as Metro Manila has developed.

I had noticed also that many new roads and highways have been constructed in and around Manila. And also that previously existing roads have been

As I said during the JICA cocktails for the TTC Staff, I would like to think that we should build on our disagreements, on our differences in thoughts rather than on our agreements because if we did agree with each other all the time, one of us would not be necessary. It takes two to tango, it takes two to discuss, it takes two to be able to develop a concept and bring it to fruition.

And now that we have that fundamental base, let us not forget the past, and let us look to the future now that we have established definite objectives and directions. We must not deviate from this.

And my message to the Filipino staff of the Transport Training Center is that they do not lose sight of what the Center is for and that its main objective is purely and strictly to evolve transportation expertise in this country.

And to the Japanese staff and to JICA and of course to the Ambassador I will try something that Mr. Miura tried in Tagalog. "Domo arigato gozaimasu, Nihon to Filipino no seito ga, toga, moichido kono subarashii project de kyoryoku dekiru you kokorokara nozomimasu."

Thank you very much.

7) アンガラ フィリピン大学長のスピーチ

We welcome you all here today for the "Pasasalamat" in the traditional Filipino spirit of gratitude and appreciation. This occasion marks the successful conclusion of five years of technical cooperation between the Japanese International Cooperation Agency and our Filipino group involved in transport technology.

This five-year technical program between two Asian countries, Japan and the Philippines, may serve as a good example for future international programs in the area of modern technology between the Philippines and Japan as well as with other countries.

With cooperation focused on a specific area of technological development in this country -- that of transport, we have benefited locally from the invaluable assistance of Japan in this field. The expertise of Japan in the great strides it has made towards modernization in this century is shared with the countries of the region through programs such as these. Concrete results are achieved by way of technological planning, of a large extensive or of localized intensive application. On a large scale, the implications of transport technology on urban planning and modernization are fully explored.

On a smaller localized scale, specific problems of transport in the urban or in the rural context are given particular attention, with the eventual result of breaking down the dichotomy of urban and rural that obtains in developing countries.

Indeed, transport technology, while a specific area in national development as it concerns infrastructure building, has far-reaching implications in the larger effort of economic development. Among these are the creation of an efficient communication and exchange system linking all the parts of the archipelago from Batanes to Sulu, with its significant effects on the cultural, economic and political planes, and the facilitation of the movement of the products of industry and agriculture from the points of origin to market and service areas, thus considerably revitalizing the business sector.

Along with technological planning and development, just as important is the development of this country's human resources towards the goals of expertise and self-sufficiency in the problems of modernization. In a larger perspective, these groups that directly benefit from programs like these are expected not only apply their expertise but also engage in the education of the populace so as to enable it to properly adjust and make optimum use of these development projects.

This occasion of our "Pasasalamat" recognizes the invaluable assistance extended by the Japanese government through the experts of the Japanese International Cooperation Agency to which we award certificates of appreciation. We are also proud to witness the oath-taking ceremony of the officers of the Philippine Association of Transport Technologists, a pioneering group that now attests to the success of this five-year program of international cooperation.

To these and to all of us here today, we join in happy thanksgiving and well-deserved celebration.









JICA